

KOKUGAKUIN
UNIVERSITY
140th 1882-2022



國學院大學 大学院

Graduate School of Kokugakuin University.

文学研究科：神道学・宗教学専攻 / 文学専攻 / 史学専攻
法学研究科：法律学専攻 経済学研究科：経済学専攻



もっと日本を。もっと世界へ。



KOKUGAKUIN UTM

國學院大學

専門分野のみに留まらない広い学知で、 社会で活躍する人材に

國學院大學大学院は、大学創設約140年におよぶ学問の伝統を基礎に、昭和26年(1951)文学研究科を開設したのが始まりです。以来、法学研究科、経済学研究科を順次設置し、長年の教育研究の伝統をさらに高めつつ、多くの研究者・高度な専門家を輩出し、現在では3研究科の下に5つの専攻を擁し、200を超える講座を開講しています。毎年10人以上に博士の学位を授与している大学院は、人文科学・社会科学系の大学院の中では稀有の存在です。

近年大学院の役割は社会の変化の中で次第に大きくなりつつありますが、学問が細分化される中で、細分化された課題を深く研究するだけでなく、関連分野の研究に対する基礎知識を広く持つことが、研究者や高度な専門家として社会に活躍する人材に求められています。國學院大學大学院では、来年度から新たなカリキュラムを策定し、研究の基礎として広い学知を修得する講座を各専攻内のコースごとに設けました。一方で論文指導演習・研究指導と、学生たちの主体的な原典研究を発表しあう演習科目を中心に、講義科目を配置するカリキュラムを一層充実させ、現代的な課題に沿った科目編成を行います。それとともに複数教員による指導体制を作り上げました。学生の研究遂行能力、研究成果を発表し社会に告知する能力の向上を、実現しようとする編成となっています。

もちろん多様な資格取得、研究助成制度、国際的な学術交流、留学支援など学生の研究環境を整備しています。ことに奨学金支給についても本格的な改革に取り組んでおり、学生たちの環境はさらに向上するはずで、かつ一般入試のほか推薦入試・社会人入試・留学生入試など多様な入試制度があり、他の大学院との単位互換、特別研究員・特別研究生・聴講生・科目等履修生などさまざまな形で学べる環境を用意しています。斬新な視点、高い志と意欲を持つ方々の入学を期待しています。

大学院委員長 **根岸 茂夫**
Negishi Shigeo



國學院大學大学院 組織図



学位取得までのサポート

大学 (学部)

入試制度

一般入試 社会人入試 外国人入試

学内推薦等

文学研究科：GPA(学部成績)が
基準以上であれば筆記試験免除
(書類審査・口述試験にて選考)

法学研究科：先取り履修(P15)、飛び入学(P15)

経済学研究科：2年以内の学部卒業生も出願可能



減免制度

私費外国人留学生

一定の要件を満たすことにより授業料3割減免

本学出身者

入学金および施設設備費半額(本学前期課程修了者が後期課程に進学した場合は全額免除)

：T・A(ティーチング・アシスタント)

教育研究者を目指す大学院生が、能力開発の機会提供として、学部学生等に対するチュータリング(助言)や教育補助業務に従事し、教員歴としての業績を積むための制度です。

：R・A(リサーチ・アシスタント)

博士課程後期在学を資格とし、大学院特定課題研究(P28)の協力者として研究者の指示に従い、研究遂行に必要な業務に従事します。

：P・D(ポスト・ドクター)研究員

博士課程後期修了・単位修得退学を資格とし、研究組織においてP・D研究員の身分で大学院特定課題研究(P28)に従事します。

T・A / R・A / P・D研究員は、大学から発令を受けて雇用となり、職歴として記載できます。

博士課程前期

(標準修業年限2年)

学位授与
修士 30単位以上修得
修士論文提出
最終試験

学修支援

T・A(ティーチング・アシスタント)……
大学院奨学金、留学に伴う奨学金など
科目等履修生・聴講生

取得可能な資格

教員専修免許 上級学芸員資格
1級考古調査士 日本語教員資格
税理士試験一部免除(P23)

キャリアサポート

業界セミナー・模擬面接トレーニングなど(P27)

【科目等履修生・聴講生】

正規入学せずに授業科目を履修することができる制度です。修得単位は、大学院入学後に10単位を限度として修了に必要な単位として認定されます。また、単位の認定を必要としない場合は「大学院聴講生制度」により授業科目の聴講が可能ですので、詳細については大学院事務課までお問い合わせください。

【高度博物館学教育プログラム】

(文学研究科3専攻から複専修が可能)

「高度博物館学教育プログラム」は、本学が長年培ってきた史学・文学・神道学などの成果をふまえて、専門性の高いカリキュラムによる高度な学芸員の養成を目指しています。プログラム修了者には「國學院ミュージアム・アドミニストレーター」「國學院ミュージアム・キュレーター」という本学独自の上級学芸員の資格を授与します。なお本プログラムは、史学専攻博物館学コースを主軸としながら、文学専攻と神道学・宗教学専攻を加えた計3専攻において、主専攻と併行して履修することが可能な「複専修制度」を導入しています。



【教員専修免許状】

専修免許状とは、第一種普通免許状(学部で取得)を基礎として、大学院を修了して修士の学位を有し、「教科または教職に関する科目」の所定単位を修得することで取得可能な教員免許状であり、一種免許状の上位の免許状です。近年の教育現場では、教科に関する高度な専門知識や教授法が求められる傾向が高まりつつありますので、大学院での高度な研究を通して得た知見を教育の現場で活かしたい、と考える皆さんにとって必要な免許状と言えるでしょう。

課程認定されている専修免許状の種類および教科

研究科	専攻	免許状の種類および教科	
		中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
文学研究科	神道学・宗教学	社会	公民
	文学	国語	国語
	史学	社会	地理歴史
法学研究科	法律学	社会	公民
経済学研究科	経済学	社会	公民

第一種普通免許状を有している場合

博士課程後期

(標準修業年限3年)

学位授与
博士 12単位以上修得
博士論文提出
口頭試験・最終試験

学修支援

博士課程前期を修了以降

T・A(ティーチング・アシスタント)……
R・A(リサーチ・アシスタント)……
大学院奨学金 / 国際交流旅費補助
特別研究生

課程博士学位取得者等

P・D(ポスト・ドクター)研究員……
特別研究員(研究費・出版助成)

【特別研究生】

博士課程前期を修了して後期課程への進学準備をする者や、後期課程所定単位を修得のうえ退学して博士学位論文の提出準備をする者について、特別研究生として指導教員のもと研究を継続します。

【国際交流旅費補助】

海外における国際的な学会等への参加や調査研究の費用(航空運賃・宿泊費など)を助成します。海外で研究発表や調査を行うことで、研究業績を積み上げることができます。

【特別研究員への研究費助成】

若手研究者のグローバル人材養成を目的として、一定の要件を満たす特別研究員(課程博士学位取得者)の研究活動を支援するための研究費(図書費・研究調査費・国際学会旅費など)を助成します。

【刊行物】

課程博士論文出版助成

博士の学位を得た修了生に対し、博士学位論文の出版費用の一部を助成します。

大学院紀要の刊行

年1回刊行される『國學院大學大学院紀要-文学研究科-』『國學院法政論叢』『國學院大學経済学研究』には、在学が指導教員の推薦に基づき投稿することができます。掲載された査読付き論文は、本人の研究業績となります。



研究者・教員ほか

学費 / 奨学金制度



【学費等納付金(平成30年度参考)】

単位:円

出身	博士課程前期		博士課程後期	
	本学	他大学	本学	他大学
文学研究科	719,000	929,000	519,000	929,000
法学研究科	720,000	930,000	520,000	930,000
経済学研究科	719,000	929,000	519,000	929,000
(内入学金)	(100,000)	(200,000)	(100,000)	(200,000)

2年目以降は入学金を除いた金額を納入
詳細は、入学後に配布する「大学院学生便覧」をご参照ください。

【國學院大學大学院奨学金制度(給付)】

本学独自の奨学金制度です。
令和2年度から、経済支援型と学業奨励型の奨学金として、新しい奨学金制度が導入されます。
詳細は、制度が決まり次第告知いたします。

【協定留学及び認定留学奨学金(給付)】

海外の大学へ協定留学又は認定留学を行う大学院生に対し、学業を奨励し、留学期間が2学期間の者には40万円を、1学期間の者には20万円を支給します。

【税理士試験支援奨学金(給付)】

税理士試験に1科目以上合格している経済学研究科の学生に対し、外部セミナー受講料の50%相当(10万円を上限)を、在学期間中2回まで給付します。

【日本学生支援機構奨学金(貸与)】

第1種(無利子)
前期課程：月額55,000円・88,000円から選択
後期課程：月額80,000円・122,000円から選択
第2種(有利子)
月額50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円から選択

このほか経済的な負担を軽減し、学業奨励を目的とした奨学金制度があります。

学位取得後、社会へ





人間の営為を深く極める

文学研究科は、日本文化の真髄を理解し、かつ幅広い知識を持つことで、新しい価値観を創造し、人類文化の発展に寄与できる優れた研究者や専門的業務に従事する者の養成を目的としています。

この目的のもとに神道学・宗教学専攻、文学専攻、史学専攻の3専攻を設置し、国内は言うに及ばず国際的にも専門性の高い、充実したカリキュラムを整えています。各専攻とも長い歴史を持ち、図書館や博物館などの豊富な資料も活用しながら教育研究活動を行い、神道、文学、史学の分野に多くの研究者、教育者を輩出しています。

さらに、文部科学省が推進する複数の研究プログラムへの採択や、専攻内の新コースの設置、カリキュラム改訂、他の大学院との単位互換、学部生の大学院科目先取り履修制度の導入、入試制度の改革など、特色を活かした教育・研究、学部との連携強化を進めています。

修士、博士とも、修了者には神道学、宗教学、文学、民俗学、歴史学の学位が与えられるのも文学研究科の特色で、今日では課程博士の学位を取得する大学院学生も増えています。

活字のみの研究にデジタルの風を

文学研究科 文学専攻 教授

井上 明芳 Inoue Akiyoshi

私は今、森敦のご遺族から自筆の原稿をお借りするなどご協力いただきながら、活字からだけではわからない、小説が出来上がっていく課程・プロセスを研究しています。作品の舞台である山形県庄内地方に赴き、現地調査を行い、小説に書かれていることと実際の違いを比較しまとめ、インターネット上で情報を公開しています。一昨年は庄内の3D地図を作り、それに森敦の文学理論を踏まえたプロジェクション・マッピングを用い、研究の成果を活かしてリアルとフィクションを映像化して発表しました。

論文を書くことは、文学研究の基礎的な方法であり、最も重要なことではありません。しかし、紙媒体で見る人に、調査の結果を今のデジタル技術でどう発信できるか、現地の写真だけではなく動画を見せたり、ドローンで撮影したり、現地を体験してもらえるような方法で発表することが、いよいよ大事になってくると感じています。

日本文学専攻に限って言うと、4コースそれぞれが映像を重要視しないといけない場面が今後必ず出てきます。それはやはり活字だけではうまく伝えられないもので、特に海外の人達に日本の民俗・文化を説明する際、例えば「なまはげ」などはその動きがあってこそのもので、静止画像だけで伝えるには限界があると思っています。そうした点からも、これからの研究にはデジタル技術を積極的に取り入れていくべきと感じています。

広く学ぶことが学部だとすれば、研究に没頭できているという実感は大学院に来て初めてわかることだと思います。自分の研究のテーマを持ち、調査一つにしてもしっかり原典にあたるのが本格的に要求されます。特別な心構えは必要ありませんが、研究が好きでとにかく本気でやってみたいという気持ちが一番大切な事だと思います。

在学生メッセージ Message

神道学・宗教専攻 Shinto Studies and Religious Studies



山岳信仰を歴史的に分析し 自然と人間社会との関わりを研究

國學院大学 神道文化学部 神道文化学科 卒業
文学研究科 神道学・宗教学専攻 在学 川田 大晶

Kawata Hiroaki

もともと登山が好きで、全国各地の山に登る中で近代登山とは異なり、個人的な信仰として山に登る人の存在を知りました。学部では山岳寺院に遺された江戸時代の書物から信仰登山の諸相を探求し、さらに学問として深めたいと思い大学院に進学しました。

私の研究テーマは、山を信仰の対象とする山岳信仰です。古来、山は生活に豊穡をもたらす一方で、噴火や洪水などの災害を及ぼす存在でもありました。人々は安定的・継続的な社会を維持するために自然を理解することに努め、山岳信仰はその結果として生じた自然に対する宗教的な理解の仕方といえます。それゆえ、山岳信仰を歴史的に分析することは、現代における自然と人間社会との関わりを考える上で重要であると思います。現在は、近世

の山岳登拝がどのように行われていたのかという問題について、神社や寺院に所蔵される資料をもとに研究を進めています。

本学大学院の神道学・宗教学専攻には、名だたる教授陣と長い伝統があり、多くの業績が残されています。また、図書館や博物館には多くの貴重な資料が所蔵されており、研究に最適な環境が整備されています。

目下の目標は、一日も欠かすことなく研究を楽しみ、着実に業績を積み上げることです。研究をするということは、根拠をもって独自の考えを持つことだと思います。そのためには、先行研究の整理と分析が必要不可欠です。今後も初心を忘れずに、研究課題に取り組み続けたいと考えています。



活発で自由な空気の中で 「国家神道」を研究

南開大学日本研究院 世界史専攻 日本思想史学科 在学
文学研究科 神道学・宗教学専攻 交換留学生 秦 蓮星(シン・レンセイ)

Qin Lianxing

以前より日本近代思想・文化に興味を持ち、日本近代の神道文化について研究を深めてきました。2017年9月より南開大学日本研究院の博士課程に進学し、近代日本の国家神道についての研究を進めています。今回の留学の目的は、今日の「国家神道」という名称を名づけた加藤玄智が、どのようにして「国家的な神道論」を構築したのかを明らかにし、近代日本の国家神道をより深く理解することです。神道を研究するには國學院大學は日本で一番の環境であると思います。

特に、阪本是丸先生は「国家神道」分野においては第一人者の教授だと考えています。

中国では大学院でも講義形式の授業が多いのですが、それに対して日本では、演習中心で、それぞれの視点から同じテーマで自分なりのレジュメを作り、考えを述べます。その自由な雰囲気が一番良いところだと思います。将来は、研究者として中国の大学で教鞭を執りたいと考えています。

神道学・宗教学専攻 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
西岡 和彦	教授/博士(神道学・國學院大學)	神道思想史	神道神学研究・特殊研究(演習)	山崎簡齋を研究する
阪本 是丸	教授/博士(神道学・國學院大學)	近代神道史、国学	神道史研究・特殊研究(演習)	文書から見る近世・近代の神社と神社行政
笹生 衛	教授/博士(宗教学・國學院大學)	日本考古学、日本宗教史	神社史研究・特殊研究(演習)	考古学資料と文献史料による古代の神社と祭祀構造復元のための方法論的検討
武田 秀章	教授/博士(神道学・國學院大學)	神道史、国学史	神道古典研究・特殊研究(演習)	神道古典と近世国学
遠藤 潤	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、日本宗教史	宗教学研究・特殊研究(演習)	社会史・思想的視点からの宗教・信仰の理解
石井 研士	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、宗教社会学	宗教学研究・特殊研究(演習)	現代日本社会における宗教文化研究
黒崎 浩行	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、近世近代日本宗教史	宗教社会学研究・特殊研究(演習)	宗教社会学の調査設計・方法・倫理
岡田 莊司	客員教授/博士(歴史学・國學院大學)	古代中世神道史・神社史	神道史研究・特殊研究(演習)	古代の神祇と祭祀・大嘗祭と『日本書紀』
井上 順孝	客員教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教社会学、近代宗教運動の比較研究、宗教教育	宗教社会学研究・特殊研究(演習)	宗教社会学の理論と応用

日本文学コース

Japanese Literature



自らの研究をしながら
学内の教育に携わる機会があります

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 日本文学コース 在学 齋藤 樹里

Saito Juri

私は、國學院大學で日本文学を学びました。文学を学べば学ぶ程、更に学ぶべき事柄が増えていき、文学と真剣に向き合うには、学部の4年間では足りない、大学院で更に深く学び研究する必要性があると感じて、「自分の人生のため、より良く生きたい」という思いから大学院への進学を決めました。

大学院の授業では明治～昭和にかけての小説・批評・論争など、近現代文学を広く学んでいますが、私の専門は太宰治です。中でも 女性独白体 と呼ばれる、女性の語り手によるモノローグ形式の作品の研究をしています。

本学大学院は日本文学に関する書籍・論文が図書館に揃っており、学内に希望の文献がない場合でも国会図書館・日本近代文学館などへのアクセス

が良いことが魅力です。また、T・A(ティーチング・アシスタント)制度があり、自分も研究しながら、学内の教育に携わることができます。私は今、国際交流課でお仕事をさせていただいていますが、定期テストや入試の試験監督などの学内アルバイトの機会もたくさんあります。論文発表や学会の機会にも非常に恵まれており、海外での学会発表・調査の補助金制度があります。今年、韓国で行われた学会で、太宰治研究の発表をしてきましたが、交通費や宿泊費を助成していただき、とても感謝しています。

将来、國學院で課程博士を取りたいと考えています。私は韓国語が話せるので、韓国で日本文学の研究を続けたり、韓国の大学で日本文学を広め、教育などに携わりたいと考えています。

日本文学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
谷口 雅博	教授/博士(文学・國學院大學)	日本上代文学(古事記・日本書紀・万葉集・風土記)	日本上代文学研究・特殊研究(演習) 日本古典研究A(講義)	『古事記』の文献学的研究 新たな日本古典学の構築
針本 正行	教授/博士(文学・國學院大學)	平安時代文学の研究	日本中古文学研究・特殊研究(演習)	源氏物語の研究
山田 利博	教授/博士(文学・早稲田大学)	日本中古文学	日本中古文学研究・特殊研究(演習)	源氏物語の研究
野中 哲照	教授/博士(文学・早稲田大学)	日本中世文学	日本文学研究AI・B(講義)	堀中納言物語主要部分の研究・とりかへばや物語の研究
石川 剛夫	教授/博士(文学・國學院大學)	日本近代文学	日本中世文学研究・特殊研究(演習)	物語の動態的層層構造を分析する
井上 明芳	教授/博士(文学・國學院大學)	日本近代文学	日本近代文学研究・特殊研究(演習)	昭和期文学の特質を探究する(小林秀雄『本居宣長』考察)
			日本近現代文学研究・特殊研究(演習)	文学論争の分析を通して、文学研究の言説を考察する。

日本語学コース

Japanese Language Studies



古代語の助動詞の用法への
疑問に引き続き取り組む

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 日本語学コース 在学 藤原 慧悟

Fujiwara Keigo

古代語の文法に関心があって、本学日本文学科に入学しました。4年間勉強し、卒業論文を提出しましたが、日本語についてもっと学びたいと思い、大学院への進学を決めました。学部1年生から、有志の学生を中心とした勉強会に参加していて、研究する院生の姿を身近で見てきたのもきっかけの一つです。

学部の卒業論文では、古代語の助動詞「まし」と「む」との疑問文中での用法の違いについて研究しました。一応の結論は出せましたが解決できなかった疑問が残り、大学院進学後もこの延長で研究を続けています。

本学大学院には、古代語文法の通時態・共時態を専門とする教員が一人ずついて授業科目が充実しています。他大学との交流も活発なので、学外の教員からも色々なことを教わることができます。図書館・資料室の蔵書、特に学術雑誌・研究書が多いところも大きな魅力の一つだと思います。

まだ博士課程前期1年なので、将来どうしたいかはっきりとは決まっていませんが、博士課程後期への進学も選択肢の一つとして考えつつ、学部・院での学びが役に立つ分野に進みたいと考えています。

日本語学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
小田 勝	教授/博士(文学・國學院大學)	中古語文法	日本古代語研究・特殊研究(演習)	古代語文法の研究
吉田 永弘	教授/博士(文学・國學院大學)	国語学	日本古代語研究・特殊研究(演習)	古代語法の研究
諸星美智直	教授/博士(文学・國學院大學)	日本語教育学・日本語教育史・近代日本語・ビジネス文書学	日本近代語研究・特殊研究(演習)	近世方言資料を語る

中国文学コース

Chinese Literature



『論語』に引用される古諺から
古代の論理や思惟を論ずる

國學院大學 文学部 中国文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 中国文学コース 在学 柴崎 一孝

Shibazaki Kazutaka

私は高校の国語の教員を志しています。そのため、教育課程上、母校にて教育実習をさせていただきました。その際、自分の専門力や指導力の薄弱さを痛感し、このまま教壇に立ってしまえば良いのだろうか悩み、考えました。そこで、石本道明先生や両親と相談した結果、より専門的な知識や技能を身に付けてから教員になっても遅くはないと思い始め、大学院進学を決断しました。

私は、『論語』に引用される古諺の効用に着目し、その説得様式及び思想的価値について研究をしています。古諺及び古諺は、先秦時代の古代文献に多用されますが、例えば小倉芳彦先生の「諺の引用 - 『左傳』と『史記』の場合 -」に論じられるように、論争の中における説得の重要な様式となっています。これらに関して、『論語』を題材に原典に遡ってその意義を確認する

こと、及び『論語』以外の文献中で果たした役割を明らかにすることで、古代の論理並びに思惟に関して研究を進めています。

本学大学院は、研究する者の学識を涵養しながら、その学識を社会に還元する場であり、先生方の御指導や研究活動などを通して、人間として成長できる場であると感じています。

専門的な知識や技能を有しながら人として魅力ある教員を目指し、国語の科目を通して、文学の面白さとともに、生徒に思慮する力を育てよう努力します。そのために、現在、大学院生活では、入学の目的となった「より専門的な知識や技能を身に付ける」として「学問などを通して人間として成長する」ことを念頭に置き、日々研究を進めています。

中国文学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
石本 道明	教授	中国古典文学	中国文学研究・特殊研究(演習) 漢文学研究A・B	戴震『巨原賦注』研究 古典漢文読解の基礎・古典漢文読解の発展
赤井 益久	教授/博士(文学・國學院大學)	中国古典文学、中国古典語法	中国文学研究・特殊研究(演習)	『唐代傳奇小説』の中から唐代に編纂された小説集「伝奇」所収作品を講読する
浅野 春二	教授/博士(文学・國學院大學)	道教儀礼研究	中国文学研究・特殊研究(演習)	中国における招魂文学・招魂儀礼の研究

伝承文学コース

Folklore Studies



地元の祭りをきっかけに
地域に貢献できる研究者を目指す

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 文学専攻 伝承文学コース 在学 近藤 大知

Kondo Daichi

長野県飯田市の遠山に生まれ、地元の祭り(霜月祭)が大好きで、小さい頃から参加してきました。大学入学後、遠山だけでなく周辺の祭りを見て歩くようになり、その奥深さに心を動かされました。この地域は典型的な山村で、人口の減少、高齢化などの理由で祭りが休止していく現実を何度も目の当たりにしてきました。それは地域そのものの存続とも関わっていて、そういう中で、この地域の人々がこれまでどのような生活をしてきたのか、この地域にとって祭りがどのような意味を持つのか考えてみたいと思いました。そして、それを明らかにできるのは「民俗学」しかないと思い、伝承文学コースへの進学を決めました。

本学大学院は、資料が豊富に揃っており、また関連分野との交流も盛んなので、学問を発展させようとする良い雰囲気の中で研究ができています。

私は現在、静岡県西北部、旧水窪町の西浦地区をフィールドにして、とくに

「西浦田楽」と呼ばれる旧暦正月の行事について調査を続けています。「西浦田楽」は折口信夫をはじめ多くの研究者がこの地を訪れ、日本の芸能史を考える上で、貴重な資料とされてきました。一方で、祭りは地元の人たちの祈りが込められたり、楽しみでもあります。その両方の視点から「西浦田楽」の構造を読み解くことが大きなテーマとなっています。そのために、行事の見学や実際に担っている人への聞き取り調査をしています。見学は、祭礼の当日だけではなく、できるだけ準備の段階から見学します。

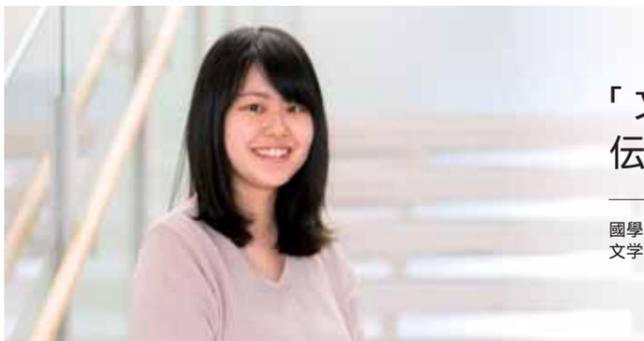
将来は、地域博物館の学芸員を目指しています。地域にいてその文化を徹底的に調べ、それを記録という形で地域に還元し、そして地域社会の抱える問題と向き合っている人を目の前で見てきた経験から、自分もそういう地域に貢献できるような研究者になりたいと考えています。

伝承文学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
花部 英雄	教授/博士(文学・國學院大學)	口承文芸	伝承文学研究・特殊研究(演習)	日本の昔話の特性を学ぶ
大石 泰夫	教授/博士(文学・國學院大學)	国文学、民俗学	伝統芸能研究・特殊研究(演習) 日本古典研究B(講義)	民俗芸能の基礎的研究を学ぶ 日本古典学の方法と思想
小川 直之	教授/博士(民俗学・國學院大學)	民俗学	日本伝承文化実習(実習)	民俗調査の基礎を学ぶ
服部比呂美	准教授/博士(民俗学・國學院大學)	民俗学	民俗学研究・特殊研究(演習)	折口学における術語形成と理論の検討 民俗学からみた「子ども」の位置づけ

高度国語・日本語教育コース

Advanced Japanese Language and Japanese Education



「文学の面白さ」を生徒に
伝えられる教師を目指して

國學院大學 文学部 日本文学科 卒業
文学研究科 文学専攻 高度国語・日本語教育コース 在学 澤田 真理子

Sawada Mariko

私は現在、中高一貫の中学・高校で国語教師をしています。学校現場で教壇に立つ中で、自分が未熟だと感じ、もっと技術を上げたい、国語教育についてももう一度勉強し、知識を得て成長することでさらに国語教育に活かしたいと思い、大学院で研究することを決めました。学習指導要領の改訂や大学入試の状況の変化など、様々な社会状況の中で、授業の中で文学教材を扱う時間数などが減少しています。その中において、今後も文学教材が授業内で読まれるにはどうしたら良いか、文学教材を扱う意義や方法について研究しています。

本学大学院は、先生方が親身になって相談にのってくださり、様々な切り口から助言をくださいます。直接研究には関係ないところであっても、コースに関係なく研究のアドバイスをいただけます。

修了後は、中学・高校の国語の教師として教壇に立つ予定です。学んだことや研究したことを活かして、子どもたちに文学の面白さを伝え、学校を卒業した後も自分で本を手に取りたいと思ってくれる生徒を育てたいと思います。



日本語の専任講師を目指し
中国と日本の交流に貢献したい

福山大学 卒業 國學院大學大学院 修士課程 修了
文学研究科 文学専攻 高度国語・日本語教育コース 在学 譚 新珂(タン・シンカ)

Tan Xinke

グローバル化に伴い、留学に限らず日本で就職する外国人も急増しています。日本の職場で活躍するためには、ビジネス日本語を把握することは非常に重要です。しかし、外国人学習者にとって、ビジネス日本語における謙譲表現を正しく理解して習得することは簡単ではなく、間違った表現を使うことで、日常の業務や会社間のやりとりの支障にもなり得てしまいます。そこで私は、現代ビジネス日本語における謙譲表現の使用実態を考察し、研究をしています。

者にとって居心地の良い場所です。指導教授もみな優しく熱心で、博識な方が多いです。そして、いつも温かさを感じています。

修士修了後、私は中国貴州省の大学で三年間働きましたが、自分に足りないものや未熟さを痛感しました。日本語を活用し専任講師となるため、更なる上を目指し悔いを残さないように、もう一度自分の限界に挑みたいと考え、國學院大學大学院へ進学しました。修了後は就職校に戻り、自分の知識を活用して、地方の日本語教育と、中国と日本、両国の交流に自分の力で貢献したいと思っています。

皇典講究所を母体とした國學院大學は、悠久の歴史を持ち、心が落ち着く緑豊かな環境です。渋谷でありながら、静かで学習しやすい環境で、研究

高度国語・日本語教育コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
高山 実佐 諸星美智直 カイザ・ シュテファン	教授/博士(文学・國學院大學) 客員教授/Ph.D(ロンドン大学)	国語教育学 日本語教育学・日本語教育史・近代日本語・ビジネス文書 日本語学、日本語教育学	国語教育実践研究・特殊研究(演習) 日本語教育研究・特殊研究(演習) 第二言語習得論A・B	国語科教育における、学習者・学習材の価値・学習指導方法等の課題を考究していく 日本語教科書の分析とビジネス言語学の研究方法を学ぶ 第二言語習得のメカニズムを、日本語と英語などに関する研究を通して明らかにする

日本史学コース

Japanese History



撰関期の正月儀礼から
政治的秩序の編成原理を解く

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 日本史学コース 在学 花畑 佳奈

Hanabata Kana

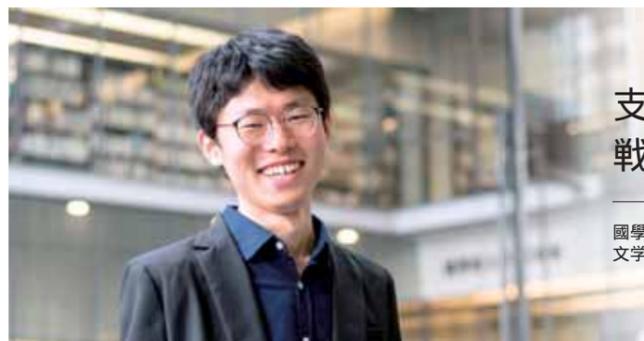
生物考古学に興味があり理系の高校へ通っていましたが、歴史も全般的に好きだったので実家の近くにある横浜市歴史博物館に通い、そこで館長の鈴木靖民先生の著書を読んだことをきっかけに「生物」ではなく「日本」の形成過程に対する興味が高まりました。そして、過去に鈴木先生が教鞭を執っていた國學院大學に入れば高度な古代歴史学を学べるに違いないと思いこの大学に進学し、古代史を専攻しました。大学3年次に佐藤長門先生のゼミに入り、4年次には大学院の先取り履修の授業を受けたことで、歴史学に関して私の知らないことがまだまだたくさんあることを実感しました。新しい知識を吸収したり自らが新しい論を生み出すことにとっても興奮を覚え、こんなワクワクした生活をまだまだ続けたい、という理由から大学院への進学を決めました。

中心に、撰関期当時の后や皇太子の立ち位置、天皇家と撰関家、またその他の官人との関係性について研究しています。今後、現在行っている研究を当時の情勢等の他の研究と絡めて発展させることにより、撰関期当時の社会や政治的秩序の編成原理解明に少しでも近付きたいと思っています。

國學院大學には国史学会という歴史学の学会があり、大学附属としては国内有数の学会です。歴史研究界隈で著名な研究者たちと直接意見を交わすことができます。私の所属する日本史学コースは、ゼミ数が豊富で、多岐にわたった分野の研究を行うことができます。特に古代史ゼミでは夏休みに巡検旅行を実施し、座学では味わうことのできない実践的な研究も行うことができます。

私は現在、10世紀から12世紀に行われていた二宮大饗という正月儀礼を

将来は研究職に就くことを目指し、アメリカの人文科学者であるソローの言うように、自分の骨を噛みしめて味を知り、進んで行きたいと思っています。



支配される側からみた
戦国社会像を明らかにしたい

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 日本史学コース 在学 新保 稔

Shinbo Minoru

読んできた複数の史料が頭の中でつながり、先行研究で論じられていない歴史的事実を発見した時に、鳥肌が立つほどの刺激的な喜びを感じます。史料という「証拠」に基づいて、他人の意見に左右されずに自分の考えを固めていく作業は、まるで推理小説の主人公のようで、とても面白いのです。こうした感覚が忘れられず、さらに、それが学問の発展という価値ある結果に結び付くということに魅力を感じ、歴史学を一生の仕事にしたいと考えるようになりました。

どのように出来上がっていったのかに興味があります。

私は、「戦国大名領国における自治と保障」というテーマで研究をしています。戦国時代というと、ドラマやゲーム等では「戦国武将」がクローズアップされがちですが、日本の人口の大多数は被支配層で占められていました。戦争が身近にあった「戦国」の社会で、そうした大名領国の民衆たちがどのように生き延びようとしたのか、また江戸時代の仕組みが戦乱の中から

國學院大學図書館には約158万冊の国文・国史・国法・神道関係を中心とした蔵書があります。数多くの史料集、研究書、学術雑誌をすぐに手に取ることができ、日本史を研究するには最適な場所です。そうした中で、日本中世史ゼミでは、豊臣秀吉の発給文書や「賀茂別雷神社文書」等を中心に、古文書・古記録の講読を行い、史料の一字一句にこだわった「実証史学」の習得に努めています。國學院出身の研究者の方も多く、外部の学会等で他の研究者の方を紹介していただいたり、勉強会に誘っていただくなど、度々助けられることもあります。

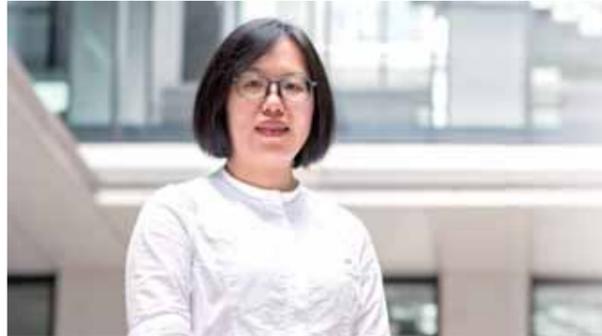
今は自分の研究に全力で取り組み、将来は、研究を続けつつ、その成果を世の中に還元できるような職業に就きたいと考えています。

日本史学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
佐藤 長門	教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本古代史、古代王権・國家の権力構造論	日本古代史研究・特殊研究(演習)	古記録から読み解く10世紀の古代日本
矢部健太郎	教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本中世史、室町・戦国・織豊期の政治史・制度史・公武関係史	日本中世史研究・特殊研究(演習)	中近世移行期の史料と研究方法
根岸 茂夫	教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本近世史	日本近世史研究・特殊研究(演習)	幕末維新期の藩政と史料
吉岡 孝	教授/博士(歴史学・國學院大學)	日本近世史	日本近世史研究・特殊研究(演習)	近世村落文書の研究
樋口 秀美	教授/博士(歴史学・國學院大學)	中国近代史、日中間係史	日本近現代史研究・特殊研究(演習)	近代日本の政治と軍事
吉田 敬弘	教授	人文地理学、歴史地理学、地図学	歴史地理学研究・特殊研究(演習)	荘園給図と中世農村景観の歴史地理学
林 和生	教授	歴史地理学、地域研究(中国)	地図学研究・特殊研究(演習)	寺社境内給図の研究
上山 和雄	客員教授/博士(文学・東京大学)	日本近代史	比較地誌学研究・特殊研究(演習)	幕末・明治に日本を訪れた外国人の滞在記から当時の日本社会や景観を読み解く
			日本近現代史研究・特殊研究(演習)	日本近現代史の研究

外国史学コース

World History



「北朝の宗廟祭祀制度」から
中国古代王朝の礼制体系を考察

中南民族大学 外国語学部 日本語学科 卒業
文学研究科 史学専攻 外国史学コース 在学 張 雯雯 (チョウ・ブンブン)

Zhang Wenwen

私の故郷、中国の内モンゴル自治区フルンボイル市には「嘎仙洞」という洞窟があります。そこは北魏王朝を建立した鮮卑拓跋部の発祥地とされており、洞内の西壁、洞窟の入口から15メートルの所で、北魏太平真君四年の祭祀の祝文が発見されました。これがきっかけで、私は中国古代の皇帝祭祀制度について、深い関心を持つようになりました。

國學院は史学の専門性が高く、さらに私の指導教授である金子修一教授は、主に漢から唐の時代にかけての皇帝祭祀を中心とした研究を行っています。私は金子教授のご指導の元で皇帝祭祀を研究したいと思い、國學院大學大学院への入学を決めました。

私の研究テーマは、「北朝の宗廟祭祀制度」です。宗廟祭祀制度は中国古

代王朝の礼制体系の重要な部分です。胡漢融合を特徴とする北朝では、その宗廟祭祀制度はどのように形成され、またどのような特徴があるのか、私は関連史料と関連の研究成果を通して、これらを研究したいと考えています。「魏書」、「北史」などの漢文史料をよく解説し理解を深め、後漢から唐までの制度と比べて、北朝の宗廟祭祀の特徴を明らかにしたいです。

國學院大學大学院には研究に必要な資料が豊富にそろっており、資料の収集に便利です。また、大学院生専用の学生研究室があり、その資料も自由に閲覧することができます。

将来は、博士課程に進学して研究を続け、ゆくゆくは故郷に戻って大学の教員になりたいと思っています。

外国史学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
金子 修一	教授	中国古代史	東洋史研究・特殊研究(演習)	唐代の史料の解説
古山 正人	教授	古代ギリシア史	西洋史研究・特殊研究(演習)	古代ギリシア金石文研究
大久保桂子	教授	イギリス近代史	西洋史研究・特殊研究(演習)	イギリス近代史研究演習

考古学コース

Archaeology

「1級考古調査士」が取得可能



縄文土器の文様から
社会集団の情報を読み解く

國學院大學 文学部 史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 考古学コース 在学 松本 耕作

Matsumoto Kosaku

國學院大學大学院の考古学コースでは、専任の谷口康浩教授をはじめ、各分野の第一人者の先生方が多数授業をされています。私は学部2年次に参加した考古学実習をきっかけに考古学を始め、本格的に勉強を開始した3年次に、継続して学びたいと進学を決めました。

専攻は縄文時代で、土器の研究をしています。文様など共通の特徴をもって広範囲に分布する縄文土器には、当時の社会集団に関する情報が残っています。私は特に、土器づくりにおける製作者の技術的な特徴をみることで、土器に表れる社会性について研究を進めています。

学部開講の「考古学調査法」(考古学実習)の一環として、毎年夏に発掘調査を行っています。現場での調査を実際に経験でき、豊富な調査の出土

品をすぐに手に取れる環境は魅力です。また、大学院生は、T・Aや特別参加生として調査に参加し、学部生と合同で発掘調査を進めることとなります。T・Aは、学生と先生の間に入り、勉強会での発表内容への助言や、調査を進める上での指導を行うなど、実習生の学習を手助けする役割を務めます。そこで、下級生への指導という経験は、考古学の力はもちろん、コミュニケーション力の訓練にもつながります。

今後は博士課程後期へ進学し、もう少し勉強を続けたいと考えています。その先は、埋蔵文化財の専門職への就職を希望しており、地域の文化財を守り、活用する仕事に就ければと思っています。

考古学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
谷口 康浩	教授/博士(歴史学・國學院大學)	先史考古学、縄文文化の研究	先史考古学研究・特殊研究(演習) 理論考古学研究(演習) 考古学実習A(実習)	先史考古学の研究法と実践 考古学の理論と方法の基本的問題 遺跡発掘調査の最新技術を学ぶ-先史考古学分野- 歴史(原史・有史)考古学の研究方法
古谷 毅	客員教授	歴史考古学、古墳時代の研究	歴史考古学研究・特殊研究(演習)	

美学美術史コース

Aesthetics and Art History



幅広い分野から得た知識を
自分の研究課題に活かしたい

清泉女子大学 文学部 文化史学科 卒業
文学研究科 史学専攻 美学美術史コース 在学 浅川 綾菜

Asakawa Ayana

小学生の頃から城跡巡りが好きで、日本の歴史について関心がありました。大学1年の頃に美術史に出会い、美術作品から見えてくる時代背景や人物描写など、作品から読み解く歴史に強く惹かれました。大学3年までは西洋美術を中心に学んでいましたが、日本人であるのに日本の美術のことを何も知らないことに疑問を覚え、もっと日本の文化や美術についての知識を深めたいと思うようになり、様々な展覧会に行くようになりました。その中で浮世絵と出会い、その面白さに魅了されました。卒業論文では明治浮世絵師・小林清親と西洋の文化、作品そして洋画家との関係性について日本と西洋の美術作品について執筆しました。そして、まだまだ知らない美術作品に出会いたい、自分の専門分野である特に明治時代を中心とした浮世絵について、より深い知識を得たいと思うようになり、大学院への進学を決めました。

現在も、小林清親を中心とした明治期の美人画作品についての研究を行っています。清親についての研究は今までも様々な研究がなされていますが、美人画作品という点にフォーカスを当てた研究は少なく、まだまだ研究をしていく余地があると考えています。美術史を学ぶ上では、歴史学・宗教学など幅広い分野の知識が必要だと大学の頃に思いました。大学院ではより様々な分野から豊富な知識を得て、自分の研究課題に活かしていきたいと考えています。

私は今、美術作品をより多くの人に知ってもらうため、アートと鑑賞者を結びつけるきっかけを作っている新聞社やテレビ局の文化事業部に強い関心を持っています。メディア関連の企業の文化事業の仕事も視野に入れ、将来は美術に携わる仕事に就きたいと考えています。

美学美術史コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
小池 寿子	教授	西洋美術史、死の図像学	美術史研究・特殊研究(演習)	ヨーロッパ中世から近世における王権の表象
藤澤 紫	教授/博士(哲学・学習院大学)	日本美術史、日本近世文化史、比較芸術学、浮世絵	美術史研究・特殊研究(演習)	人をえがく、時代をえがく
西村 清和	客員教授/博士(文学・東京大学)	美学芸術学/芸術哲学、フィクション論、イメージ論、環境美学	美学研究・特殊研究(演習)	分析美学研究

博物館学コース

Museology



中国の古都、西安から日本へ。
博物館学を究めたい

亜細亜大学 国際関係学部 国際関係学科 卒業
文学研究科 史学専攻 博物館学コース 在学 張 哲

Cho Tetsu

私の出身地は、唐代の都であった長安が置かれ、中国の中でも歴史を持つ西安です。個人的な事柄ですが、家族や親戚にも博物館や美術館関係者が多く、いつかは自分も博物館で働きたいと思うようになり、専門的に博物館学が学べる國學院大學大学院に入学しました。

ここを選んだ直接のきっかけは、西安にある「西安右任故居纪念馆」の館長から、今の指導教員である青木豊教授を紹介されたことです。その館長もかつて國學院大學に留学していた経験があり、古くから青木教授と親交があったことが私にとっては幸いでした。研究室の仲間は全員研究熱心で、研究上ではいいライバルです。そういう環境の中にいれば、自分も負けまいと自然に研究に熱が入ります。

長期休みに入ると中国に戻り、各地の博物館を巡ったり、史跡を見たりしています。中国の文化財や歴史遺産はとにかく量が膨大であることから、保

護という観点では立ち遅れた面もありましたが、近年は真剣に取り組むようになってきています。日本と比べていい点や改善すべき点などを踏まえ、自分の研究課題に取り入れています。

中国では、教科書で繰り返す「抗日」という言葉を見ることも多く、反日感情を抱く人もいますが、実際に日本に来てみると日本人はルールを守るし、礼儀正しいし、本当の姿は自分の目で見るのが何より大切なのだと改めて思います。日本人学生の皆さんもメディアで報道されていることばかりを信じないで、留学するなどして、ぜひ自分の目で中国の実情を確かめてほしいですね。中国も日本も長い文化を有している国であり、自国の文化を大切にしたいうえで、異文化を理解することが重要だと考えます。留学生にとってそのような歴史観や文化に対する考え方を学ぶには、國學院は最適な場であると思います。

博物館学コース 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
青木 豊	教授/博士(歴史学・國學院大學)	博物館学、考古学、和親史	資料保存展示論研究・特殊研究(演習) 地位博物館論研究・特殊研究(演習) 博物館学特論(講義)	資料の保存と展示を考える 地域風土資源の研究
鷹野 光行	客員教授	考古学、博物館学	博物館学特論(講義)	明治時代の博物館思想を読み解く
前川 公秀	客員教授	博物館学	博物館学特論B(講義) 博物館資料論特論B(講義)	博物館史から博物館の教育機能を考える 博物館(美術館)における歴史資料としての絵画 博物館をつくる

文学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

文学研究科の教育研究上の目的

文学研究科は、日本文化の真髄を理解し、かつ幅広い知識をもち、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与することができる、優れた研究者及び専門的な業務に従事する者を養成することを目的とする。



文学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

博士課程前期においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料料についての専門的スキルと実証的な研究姿勢を身に着け、柔軟な発想と論理的思考で的確な解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、その専攻分野を示す修士号を授与する。

博士課程後期においては、専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、なおかつ先行研究を踏まえて、新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者に、その専攻分野を示す博士号を授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、かつ口述試験において博士課程後期の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対しても、その専攻分野を示す博士号を授与する。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

文学研究科の設置目的を具現化するために研究科内に神道学・宗教学専攻、文学専攻、史学専攻の3専攻を置き、さらに各専攻内に専門分野に基づいたコースを設けることによって、学生各個の研究課題を具体化できるようにすることを方針としている。その上で、博士課程前期(修士)と博士課程後期(博士)とを一貫させた教育課程として設けている。

前期課程においては、広い視点と学識を涵養するとともに、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うことを方針として、指導教員による資料料の読解・分析ならびに

実地調査などの研究指導を通じて、より高度な専門的かつ多角的な思考力や判断力を修得する専門分野の演習、論文指導を実施する。

後期課程においては専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うことを方針として、専門分野の演習と論文指導演習を編成している。

さらに博士課程前期ならびに後期においては、文学研究科ならびに各専攻の設置目的を実現するために、必要に応じて実習科目を設け、実地あるいは実務的な研究能力・専門的業務能力が修得できることも編成方針としている。

神道学・宗教学専攻

日本古来の伝統宗教である神道を中心とする日本の伝統文化に関して、歴史的思想神学的な理解を深め、内外の諸宗教及びそれに関連する宗教文化の意義と役割を比較研究し、幅広い人材を養成すること。

文学専攻

文化・文学・言語に関する高度な研究の深化・発展を図り、その能力を有する研究者の養成、豊かな学識と高度な教育能力をもつ教育者の養成、及び専門的業務に従事する社会人の再教育。

史学専攻

国内外の歴史学・考古学・地理学・博物館学及び美学美術史の幅広い分野に関し研究の深化・発展を図り、各種研究教育機関で研究教育に携わる優れた人材を育成すること、併せて社会人を積極的に受け入れ、幅広い人材を養成すること。

入学受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

文学研究科の入学者は、文学研究科の設置目的である「日本文化の神髄を理解し、かつ幅広い知識をもち、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与」したいという目的意識や志向性を有する者を対象とする。

神道学・宗教学専攻

神道学・宗教学専攻においては、その資質として、神道文化をはじめ国内外の宗教文化に関する幅広い知識と具体的な研究課題を持ち、かつその学修・研究に必要な問題発見能力、知識、技能などを備えていることを受入れ方針としている。

文学専攻

文学専攻においては、その資質として、日本文学、日本語学、中国文学、伝承文学、高度国語・日本語教育の各コースに関する幅広い知識と具体的な研究課題を持ち、かつその学修・研究に必要な問題発見能力、知識、技能などを備えていることを受入れ方針としている。

史学専攻

史学専攻においては、その資質として、日本史学及び歴史地理学、外国史学、考古学、博物館学、美学美術史の各コースに関する幅広い知識と具体的な研究課題を持ち、かつその学修・研究に必要な問題発見能力、知識、技能などを備えていることを受入れ方針としている。

さらに社会人や外国人留学生を対象とした入学選抜制度を設け、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大などをはかることを方針としている。

以上に加え、博士課程前期(修士)においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育を修得した者を受け入れる。博士課程後期(博士)においては、博士課程前期(修士)修了程度の能力を有し、専門領域において独自の研究計画に基づく継続的研究を志向し、それを遂行するに足る能力と技能を備えた者を受け入れる。



高度な専門知識・専門能力と、 問題解決のための分析力を身につける

法学研究科は、法律学・政治学に関する専門知識を修得するのみならず、みなさんが疑問に感じる問題の所在を分析し、解決の方向や具体的な説明を主体的に提示できる人材の育成を目標としています。法学研究科で指導・教育を担う専任教員は、それぞれの分野で、自らの疑問と格闘し、その解決方法やよりよい説明を提示するために思索を続けてきた研究者であり、その意味で

みなさんの先輩でもあります。ですから、みなさんの疑問を正確に受け止め、みなさんと一緒に問題に取り組み、みなさんの問題意識をより深く考えるサポートを行うことができるでしょう。また、高度な専門知識を有する職業人を養成し、修了後の社会人としての活躍を促進するために、実務家教員による科目(公共政策演習・キャリアプランニング)も開講しています。

法学研究科の博士課程前期(修士)は令和2年度(2020年度)より、「研究コース」と「公務員養成コース」の二つに分かれます。

研究コース

法学又は政治学の研究職を目指して博士課程後期へ進学することや、法学又は政治学に関する関心をさらに深めて学修することを目標とします。修士論文の執筆が修了の要件となります。

公務員養成コース

国家公務員又は地方公務員を目指す者を対象として、試験に合格するのみならず、実務に就いた後にも専門知識を活かして活躍することを目標とします。プロジェクトペーパーの執筆が修了の要件となります。



いずれのコースにおいても、院生のみなさんには、指導教員をはじめとする教員による指導の下、高度な専門知識・専門能力を身につけて研究者や社会人・公務員として活躍できるようになることが期待されています。

博士課程後期では、独創的かつ自立的な研究活動に必要な専門知識と研究能力を身につけた上で、自らの研究課題に関する博士論文を完成させることが目標となります。

こうした目標を目指すみなさんのために、博士課程前期では一般入試の他に多様な入試制度を設けています。例えば、國學院大學学部生(学内者)を対象とした「学内成績選考入試」(学部の成績と面接試験を基に合格を判定します)や、社会人を対象とした「社会人入試」(小論文と面接試験を基に合格を判定します)などです。

また、学部4年生だけでなく、学部3年生を対象とした「3年次入試」もありますので、学部3年生の段階で大学院を志望する学生には、早期に受験できる機会が認められています。 下記参照

..... 学部3年生の合格後の選択肢 ~ 飛び入学と先取り履修 ~

学部3年生が「一般入試」「学内成績選考入試」「学内論文選考入試」のいずれかに合格した場合、2つのコースのどちらかを選べます。

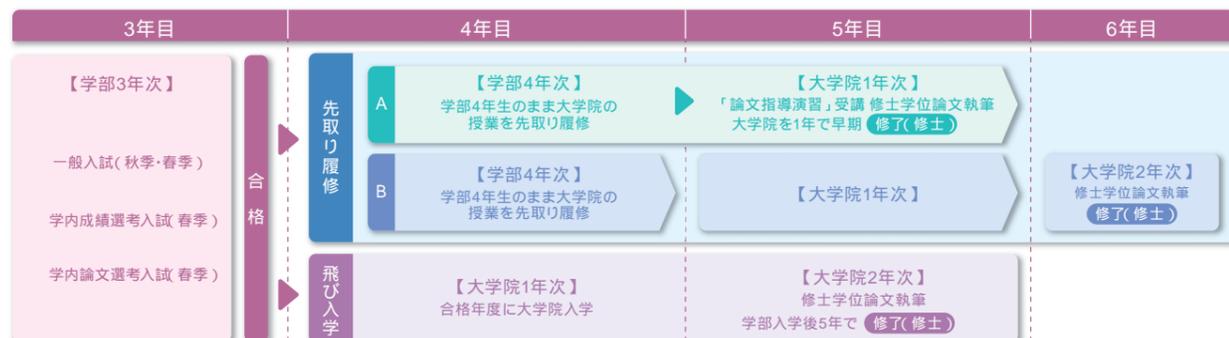
先取り履修

合格後に学部4年生のまま大学院の授業を先取り履修し(10単位まで)、1年後に学部を卒業して大学院に入学。

- A 指導教員と相談の上、大学院1年次に残りの修了単位を修得、論文指導演習を受講し修士学位論文(修士論文またはプロジェクト・ペーパー)を提出し合格すれば、1年で早期修了することもできます。
- B 通常の2年間の大学院博士前期課程の教育を受けて修了することもできます。

飛び入学

卒業をまたず合格年度に大学院に入学し、2年間の大学院博士前期課程の教育を受けて、(学部入学から5年間で)修士の学位を取得できます。



自らの「答え」を究めよう

法学研究科 法律学専攻 教授

川合 敏樹 Kawai Toshiki

IOT(Internet of Things)は私たちの生活にかなり浸透してきていますし、人工知能やロボットの研究や実用化の進展も目覚ましいものがあります。他方、これらは私たちの生活に少なくない変化をもたらすだけに、これらにかかわる法とその研究の重要性は今後いっそう高くなります。「電波法制・医療法制・道路交通法制等々によるこれらの促進と規制はどうあるべきか」、「これらを活用した防災・減災型のまちづくりはどうあるべきか」、「技術革新を進めつつ個人情報保護を貫徹するにはどうするべきか」.....etc. 「IOT・人工知能・ロボット等の現代技術に対して法はどのように向き合うべきか(向き合えるか)」という問いへの解答の探求は、まだまだ途上にあります。

法律学の世界では、このようにいまだ「解決」されていない「問題」や日々生起しつつあるさまざまな「問題」を「解決」するため、多様なアプローチから自らの「答え」を導き出すことが求められますし、このことこそ法律学の醍醐味であるといえます。

大学院とは学究の場です。そして、大学院での学究とは、それまでの学問的な積み重ねに基づいて、自らの力で「問題」を発見してこれを「解決」に導くような「答え」を示すことであるように思います。

とりわけ、法学研究科では、公務員として必要な能力を身につけ、修了後には実際に公務員として活躍することを目標とする方に向けて、今年度から新たに公務員養成コースを設置しました。学究の成果として得られた自らの「答え」を公務員の立場で実現することができるよう、一緒に頑張っていきたいでしょう。

法学研究科 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
長又 高夫	教授/博士(法学・國學院大學)	法典編纂史・法思想史	日本法制史研究(講義)	分国法を講読する
俣 剛	教授	英米法、イギリス法制史	外国法研究(講義)	英米の公文書を読む
植村 勝慶	教授	憲法	憲法研究(講義)	憲法の基本判例の検討
平地 秀哉	教授	憲法	憲法研究(講義)	憲法の日米比較
高橋 信行	教授/博士(法学・東京大学)	公法(行政法)	行政法研究(講義)	行政法判例研究
川合 敏樹	教授	行政法、環境法	行政法研究(講義)	行政法・環境法の文獻・判例研究
宮内 靖彦	教授	国際法、国際組織法	国際法研究(講義)	国際法の問題の分析方法
関 哲夫	教授/博士(法学・早稲田大学)	刑法(特に刑法、少年法)	刑法研究(講義)	刑法總論・刑法各論の論点を掘り下げる
甘利 航司	教授/博士(法学・一橋大学)	刑法、刑事政策	刑法研究(講義)	犯罪成立の主観的要素
中川 孝博	教授/博士(法学・一橋大学)	刑事訴訟法	刑事訴訟法研究(講義)	刑事訴訟法の最先端
佐藤 秀勝	教授/博士(法学・一橋大学)	民法	民法研究(講義)	民法・財産法の研究
門広 乃史子	教授	民法	民法研究(講義)	家族法判例研究
一木 幸之	教授	民法	民法研究(講義)	民法財産法の裁判例及び判例研究
鈴木 連次	教授	商法	商法研究(講義)	商法争点研究
森川 隆	教授	商法、会社法	商法研究(講義)	会社法事例研究
本久 洋一	教授	労働法	労働法研究(講義)	労働者・使用者の権利義務論の研究・労働者規則の複数性(マルチチルド)の問題
上神 貴佳	教授/博士(法学・東京大学)	政治学、現代日本政治、政党、選挙、政策	政治学研究(講義)	比較政党政治研究の新潮流
横山 謙一	教授	政治学、西洋政治史、フランス近現代政治史	西洋政治史研究(講義)	フランス革命以降の近現代フランス政治史概観
坂本 一登	教授/法学博士(東京都市大学)	日本政治史	日本政治史研究(講義)	明治初期の行政と立法
羽田 真司	教授	政治思想史、政治哲学、政治理論	西洋政治思想史研究(講義)	Hannah Arendt『The Origins of Totalitarianism』を読む
永森 謙一	客員教授	政治学、現代政治	政治学研究(講義)	象徴形式としての神話と「国家の神話」

New

國學院大學大学院法学研究科に 「公務員養成コース」が新設されます！

國學院大學大学院法学研究科では、新しく「公務員養成コース」が開設されます。公務員養成コースでは、公務員を志望する学生が夢を実現できるよう、公務員試験に合格し、かつ、就職後も学術的基礎に基づいた活躍ができる人材を養成することを目指します。大学院に在籍して更なるトレーニングを積んで、公務員試験合格を勝ち取りましょう！

公務員養成コースの特徴

公務員養成に特化した講義(「実践研究」科目)を多数開講し、受験や実務に役立つ知識や能力を修得することを目指します。

「公共政策演習」や「キャリア・プランニング」では、現役の公務員や公務員OB・OGを講師として招き、面接試験の模擬実践や実務に向けたトレーニングを行います。

プロジェクト・ペーパーを執筆することで、政策上の課題を分析し、解決策を提案する能力を身に着けます。

学部4年次に「先取り履修」を用いることで、大学院を1年間で修了することもできます。

公務員養成コースのカリキュラム

実践研究科目

従来の「研究」科目(憲法研究・政治学研究等)に加えて、公務員試験の主要科目について「実践研究」科目(憲法実践研究・政治学実践研究等)を開講します。「実践研究」科目では、公務員試験の過去問を素材として、重要な理論・判例・法令を学んだり、答案の執筆方法をトレーニングしたりします。

実践研究科目

憲法実践研究
商法実践研究

行政法実践研究
外国法実践研究

国際法実践研究
政治学実践研究

刑法実践研究
など

民法実践研究

実務家教員による科目

「公共政策演習」では、地方自治体の公務員が講師となり、地方自治体が抱える政策問題を材料に、解決策を検討します。現役の公務員や公務員OB・OGと議論することで、面接試験の対策にもなります。

「キャリア・プランニング」では、公務員OB・OGが講師となり、あるべき公務員像や公務員試験で求められるものについて考えます。公務員としての資質を磨く機会になります。

プロジェクト・ペーパー

修士課程修了の要件として「プロジェクト・ペーパー」を執筆します。指導教員の指導の下で、自己の関心のある政策上の課題に関し、それを解明するために必要な学問分野の学術的知見を踏まえて、政策提言を行うことが目的となります。プロジェクト・ペーパーで特定の政策課題について深く研究することは、実務家としての能力を飛躍的に高めることにつながるでしょう。

教員メッセージ



実務に活かせる深い学びを

法学研究科 法律学専攻 教授 / 行政法実践研究

高橋 信行

Takahashi Nobuyuki

当然のことですが、「行政法」の知識は公務員試験においても実務においても極めて重要になります。公務員が様々な権限を行使する際の「拠り所」が行政法に他ならないからです。規制権限を行使する際にも、社会保障等の給付行政を担う際にも、行政法を正しく理解して、法令に即した決定をとることが行政の公平性を確保するためにも、市民からの信頼を得るためにも、強く求められています。

「行政法実践研究」の授業では、各種の公務員試験の過去問題をベースにしつつ、関連する法理論や判例を学んでいきます。例えば、一つ一つの判例の背景にある状況や理論を学ぶことは、一見すると効率が悪いように思えます。しかし、深く学ぶことはそれだけ記憶に強く残りやすくなるので、結果として成績向上につながります。

また、判例や学説をベースにして、現実の行政が抱えている様々な問題についても取り組んでいきます。特に、解釈論だけでは解決困難な問題については、法律や条例を改正するという立法上の手当も必要になることから、立法論の基礎も学びます。

これらの知識は、公務員試験に合格するためだけでなく、実務に就いてからも役立つでしょう。公務員として自らの能力や知識を最大限発揮できるように、大学院の場で研鑽を積んでもらいたいと思っています。

少し難しく堅苦しい説明になってしまいましたが、実際の授業では、積極的に学ぶ意欲を持続できるように、様々な工夫をほどこしています。皆さんの夢がかなうように、私達教員も励んでいきますので、一緒に頑張りましょう！

【地域に寄り添い、地域の課題を解決する】

東京や横浜といった大都市でも、地域レベルで見ると、様々な課題が山積しています。「公共政策演習」では、このような地域的な課題を発見し、その解決策を見つけるトレーニングを現役公務員の指導の下で積んでいきます。

【公務員として多様なキャリアを形成する】

公務員として働き始めることは皆さんのキャリアにとっての「ゴール」ではありません。「キャリア・プランニング」では、社会に貢献できる人材として成長していくためのキャリア形成について、公務員OB・OGと一緒に考えます。

公務員養成コース Q & A

学部を卒業した後に公務員を再受験することを考えていますが、公務員養成コースに進学するメリットがあるのでしょうか？

A 再受験で内定を得るためには、しっかりした計画と強い意志が必要になります。本コースでは、教員の指導の下、志を同じくする仲間達と切磋琢磨して学び続けることができます。また、より専門性の高い知識を身に付けて修士号を取ることもできます。

公務員予備校とはどのような違いがあるのでしょうか？

A 本コースでは、合格のための受験テクニックの指導に偏るのではなく、試験問題の背景にある理論や判例について学ぶことで、より理解を深めることができます。また、公務員として働き始めた後に必要となる知識や能力を磨くことができます。

大学院に進学すると、学費等の経済的負担がかかってしまうのが心配です。

A 本学の大学院では、学生の経済的負担を減らすために、各種の奨学金制度を用意しています。また、本コース独自の奨学金もありますので、経済的負担を抑えることができます。

3年次入試の制度があると聞いたのですが？

A 学部3年生の時点で大学院への進学を希望する場合には、3年次の春季入試(2月実施)を受験することができます。合格すると、大学院への入学を1年保留して、学部4年生の時に大学院の授業を先取り履修することができます(3年次合格者先取り履修制度)。学部卒業後に大学院に入学してからは、1年修了を目指すこともできます。



修了までのプロセス

【2年修了の場合】

修士1年目

大学院入学(4月)
プロジェクト・ペーパー検討開始
公務員試験受験(1年目)

修士1年目には、実践研究科目を履修して受験対策に励むと同時に、指導教員の指導の下、プロジェクト・ペーパーの検討も始めます。(修士1年目に公務員に内定した場合には、1年修了も可能です。)

修士2年目

公務員試験受験(2年目)
論文指導演習
プロジェクト・ペーパー執筆

修士2年目には、公務員試験を受験しつつ、プロジェクト・ペーパーの完成を目指します。修了単位(30単位)を修得して、プロジェクト・ペーパーが完成すれば、修了となります(修士号授与)。

大学院修了

実践研究科目を履修することで、公務員試験の対策をしながら、修了要件を満たすことができます。

公務員へ

【3年次入試・1年修了
(3年次合格者先取り履修制度)の場合】

学部3年目

春季試験合格(2月末)
3年次合格者は、大学院への入学を1年間保留して、学部3年目に在籍し続けることができます。

学部4年目

大学院入学保留(学部3年目に在籍)
公務員試験受験(1年目)
先取り履修(10単位まで)
プロジェクト・ペーパー検討開始

4年生の時には、学部卒業を目指しつつ、大学院の科目を「先取り履修」することができます。先取り履修した科目は、「10単位」まで大学院の修了単位として認定されます。また、指導教員の指導の下、プロジェクト・ペーパーの検討も始めます。

修士1年目

大学院入学(4月)
公務員試験受験(2年目)
プロジェクト・ペーパー執筆

大学院入学後は、公務員試験受験対策を進めつつ、プロジェクト・ペーパーの完成を目指します。修了単位(30単位)を修得すれば1年間で修了することも可能です。

大学院修了

実践研究科目を履修することで、公務員試験の対策をしながら、修了要件を満たすことができます。

公務員へ



実務家と研究者を両立させ 多角的な視点で社会に貢献したい

國學院大學 法学部 法律学科 卒業
法学研究科 法律学専攻 在学 **飯田 森**

Iida Shin

大学3年生の時に飛び級ができるかわかり、5年間で修士号が取れるなら、将来、法律に関わるうえで役立つと思いました。その時に行政書士の資格も取っていましたが、実務と学問どちらも学ぶことで、法律を学問的に考え、専門性を深め、社会に役立てることができるのではないかと考えたのが大学院に進学したきっかけです。

私は今、「デジタル社会における商業登記の公示力」を研究しています。実務と学問を学ぶ中で、何十年も前の古い学説が今もそのまま使われている現状で、デジタル社会になった時に実務的な視点から見たら、もっと改善されるところや、学説が変わるところがあるのではないかと思います。行政書士として実務に携わる中でも、授業で聞いた話と実務でやっている話に矛盾を感じることがあり、それを調べて行くうちに、その多く

が、デジタル化によって生じたものであり、デジタル化によって解消できるものだと考えました。今は特定の商標登記で研究をしていますが、将来もっと範囲を広げたいと思っています。

法学研究科の良いところは、少人数なので、自分の目指す分野を専門としている先生と、毎週1時間半、一対一の形式で授業を受ける貴重な時間が持てることです。少人数ゆえ、様々なチャンスがまわって来る確率も高いです。

将来は研究者として大学で研究や指導を行いつつ、実務家としても活躍したいです。法律の分野では、特に学問と実務が離れてしまう部分が多いのですが、そこを突き詰め、多角的な視点を持つことで相乗効果を生み出したいと考えています。



「研究者」まで10年、学恩に報いる決意

博士(法学)
法学研究科 法律学専攻 博士課程後期 修了
国立大学法人広島大学 文書館 助教 **高杉 洋平**

Takasugi Yohei

私は研究者を目指して大学院に進学しました。指導教員からは、研究者としての一本立ちは容易ではないこと、相当の覚悟を持って勉強しなくてはならないこと、就職には研究能力以外の要素が強く作用することを繰り返し諭されましたが、その時は意に介しませんでした。しかし後々、師匠の警告の意味を身をもって知ることになります。

大学院進学後は近代日本における政軍関係史を研究テーマとしました。政軍関係史とは、文字通り「政」(内閣・議会・政党etc.)と「軍」の諸関係を明らかにしようとする学問です。「敗戦国」日本では古くから研究者の関心の対象であり、すでに分厚い研究蓄積があります。そのため、これまでの研究史のなかで自分のオリジナリティーをいかに出すか悪戦苦闘することになります。研究の方向性がなかなか定まらず、最終的に

博士号の取得まで、研究の中断期間も含めて10年間を費やすことになってしまいました。

この間、指導教員には、遅々として進展しない研究を辛抱強く見守っていただきました。怠惰な弟子を叱るでもなく、指導を押し付けるでもなく、温かく見守ってくださった先生の存在がなければ、勉強を続けることは絶対に不可能だったでしょう。また大学からは、奨学金や博士論文刊行助成金などの手厚い援助も受けました。

学位取得後も就職に関しては辛酸をなめ、再び指導教員の危惧が現実化してしまいましたが、幸いにして広島大学への奉職が決まりました。「職業研究者」としては漸くスタートラインについたばかりですが、多くの方の学恩に報いることができるよう努力していきたいと思っています。

法学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

法学研究科の教育研究上の目的

法学研究科は、学部教育を基礎とし、法学及び政治学に関する、専門的分析能力を用いて先端的問題を総合的に分析・判断し社会的諸問題の解決に貢献する者、及び専攻分野に関し独創的研究を行い指導する能力をもつ研究者を養うことを目的とする。

法学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

博士課程前期(修士)においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育を踏まえ、法学または政治学についての高度な専門知識を十分に自らのものとし、主体的で独自の観点から現代社会における法的・政治的事象を分析する能力を示す成果をあげた者に対し、修士号を授与する。

博士課程後期(博士)においては、博士課程前期(修士)で修得した高度な専門知識と主体的で独自の姿勢に加えて、自らの研究成果を纏めるための研究計画を立案し、着実に実行することができ、かつ、実行のために必要とされる資料収集、読解能力、語学力及び情報処理技術などを身につけ、今後、専攻分野において独創的研究を継続的にを行い、後進を指導する能力を身につけたことを示す成果をあげた者に対し、博士号を授与する。

教育課程の編成・実施方針 (カリキュラム・ポリシー)

博士課程前期(修士)においては、学生が専門知識を修得し、主体的で独自の観点から現代社会における法的・政治的事象を分析する能力を獲得できるように、指導教員が担当する授業科目、研究指導及び論文指導演習を開設する。加えて、関連諸領域における法的・政治的な諸問題についても専門知識を修得できるように、指導教員以外が担当する授業科目を開設する。

博士課程後期(博士)においては、学生が専攻分野に関するより高度な専門知識を修得し、より独創的かつ自立的な研究活動に必要な高度な専門的技術を含めた研究能力を獲得できるように、指導教員が担当する授業科目、研究指導及び論文指導演習を開設する。

なお、新たに生起する問題や先進的な研究動向に応じた学習の機会を確保するために、特殊研究(演習)を開設する。

入学者受入れ方針 (アドミッション・ポリシー)

博士課程前期(修士)においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育に基づいて、価値観と利害関係が多様化する現代社会に生起する諸問題を法学または政治学の観点から総合的に分析・判断し、それらの解決に主体的に関わろうとする積極的な姿勢を持つ者を受け入れる。とりわけ、社会人としての経験を踏まえて具体的な研究課題を見いだしている者を受け入れる。

博士課程後期(博士)においては、博士課程前期(修士)修了程度の能力を有し、加えて専門領域においてさらなる独自の研究計画に基づき継続的研究を志向し、それを遂行するに足る能力と技能を備えた者を受け入れる。





経済・経営・会計・税法... 経済をとり巻く全領域をカバー

税理士試験税法2科目・会計1科目免除に対応したカリキュラムと指導体制
社会人でも学べる土曜日を中心とした講義で多くの修了生を輩出

修士の学位等取得による研究認定申請が行える講義・指導

税理士試験は、税法3科目と会計学2科目の5科目すべてに合格する必要があります。

しかし、大学院博士前期課程を所定の単位を修得して修了し、税理士試験の一部科目に合格している場合、国税審議会に試験免除の「修士の学位等による研究認定申請」を行い、認定を受けることによって 税法科目であれば残り2科目、 会計学科目であれば残り1科目にも合格したとみなされて試験が免除されます。

「税法2科目免除」のために

税法に属するカリキュラムを準備
税法に属する科目等の研究論文の作成等に対する指導

「会計学1科目免除」のために

会計学に属するカリキュラムを準備
会計学に属する科目等の研究論文の作成等に対する指導
多くの方が「税法2科目免除」を目標として経済学研究科に入学・修了されています。

充実した奨学金制度を準備

大学院に通いながら、同時に税法科目や会計科目合格のために専門学校へ通う学生も多くいます。國學院大學大学院では、このためのサポートとして、一定の要件のもと指定する外部専門学校の受

講を支援する奨学金制度を準備しています。この奨学金は、「國學院大學奨学金制度」や「日本学生支援機構奨学金 (P4参照)と併用することもできます。

働きながらも履修等が可能な土曜日を中心とした講義

..... キャリア・コースで「税理士」を目指す

申請までのモデル(税法2科目免除の場合)



「意思決定」に必要な タックスプランを提供 職業会計人への仲間入りを國學院から

経済学研究科 経済学専攻 教授

佐藤 謙一 Sato Kenichi

「税」は我々にとって非常に身近な存在です。所得税、法人税や相続税だけでなく本年10月から引き上げが予定されている消費税など新聞紙上や雑誌などに「税」の情報は溢れています。このことは、「税」が、今日、我々の経済活動のあらゆる局面に影響を与えていることの証左にほかなりませんが、裏を返せば、会社経営者に限らず、一般の方々であっても重要な経済取引を行う場面では、それによって招来するであろう「税」を考慮して意思決定をする合理的経済人であることが求められる機会が多くなってきていると理解することができます。

税理士などの職業会計人又はそれを目指す者は、このような「意思決定」をしなければならない多くの人に対して、複数の選択肢を提供できるように、税法を正しく理解することはいうまでもありませんが、その他の関係法律や経済取引に係る情報なども収集・整理して、自らの意見をその根拠とともに提示できる重要な責務を担える立場として活躍できる可能性があります。しかも、このような流れは、経済取引の複雑化、国際化をはじめ会社自体が社会的存在として求められる傾向が一段と高まっていることなども併せて考えると皆さんが活躍できる場は、今後、確実に広がっていくと思われまます。

我々は、皆さんが職業会計人として活躍するための「考える力」を國學院で養えられるように、所得税法及び法人税法などの基本的な理解から、各論点に係る学説や裁判例等の検討を通じた論文作成指導まで確実にやっていきます。

経済学研究科 専任教員・客員教授

氏名	職名/学位	専門分野	講義・演習科目	講義・演習テーマ
細谷 圭	教授/博士(経済学・一橋大学)	マクロ経済学、公共経済学	理論経済学特論・研究(講義)	マクロ経済学の動学的側面に関する理論・実証研究
尾近 裕幸	教授	理論経済学、オーストラリア派経済学、比較経済システム論	経済学史特論・研究(講義)	経済学史研究
紺井 博則	教授	金融論、国際金融論	貨幣金融特論・研究(講義)	リーマンショック以降の国際金融システムと金融規制
土田 壽孝	教授	金融論現代ファイナンス、ファイナンシャル・エンジニアリング、マクロ経済、ミクロ経済	貨幣金融特論・研究(講義)	金融工学(Financial Engineering)の研究
根岸 毅宏	教授/博士(経済学・東京大学)	財政学	財政学特論・研究(講義)	租税論と日本の税制を学ぶ
橋元 秀一	教授	労働経済学、社会政策、労務管理論、労働調査論	経済政策特論・研究(講義)	日本経済の歩みと人事労務管理・労使関係の展開
久保田裕子	教授	消費者問題、消費者運動、有機農業運動、食料・農業問題	経済政策特論・研究(講義)	職と農をめぐる消費者問題と有機農業運動
古沢 広祐	教授/農学博士(京都大学)	環境社会経済学、地球環境・エコロジー問題、農業経済学、NGO・NPO・協同組合論	経済政策特論・研究(講義)	共存社会：環境と開発の共生、世界と日本の発展を考える
高橋 克秀	教授	アジア経済論、グローバル経済論	国際経済特論・研究(講義)	中国経済史
中馬 祥子	教授	発展途上国、国際経済、環境・開発問題、女性労働論	国際経済特論・研究(講義)	資本主義世界経済と開発問題
細井 長	教授/博士(経営学・立命館大学)	国際経済学、中東地域経済	国際経済特論・研究(講義)	国際資本移動・多国籍企業論
水無田気流	教授	文化社会学・ジェンダー論/社会関係の内実を文化現象より検証	社会政策特論・研究(講義)	ダイバーシティ(多様性)を基軸とした異文化理解・社会的包摂研究
中泉 真樹	教授/博士(社会学・上智大学)	地域社会学、産業社会学	社会政策特論・研究(講義)	医療経済学研究
小本曾道夫	教授/博士(社会学・東大)	組織社会学、産業社会学	社会政策特論・研究(講義)	社会調査データの初歩的・高度な分析
田原 裕子	教授/博士(社会学・東大)	地域社会学問題、高齢社会と社会保障	社会政策特論・研究(講義)	都市間競争における渋谷の位置づけを考える
大西 祥恵	教授/博士(経済学・大阪市立大)	社会政策、労働経済、マイノリティ研究、貧困、社会的排除	社会政策特論・研究(講義)	労働市場において不利な立場になる人々についての実証研究
杉山 里枝	教授/博士(経済学・東大)	日本経済史、経営史	経済学特論・研究(講義)	戦前期日本の財閥に関する文献・資料講義
宮下 雄治	教授/博士(経済学・國學院大)	マーケティング論、商業・流通論	経営学特論・研究(講義)	現代企業の経営とマーケティング - 現代消費社会の理解と企業対応 -
野村 一夫	教授	メディア文化論、社会理論、医療文化論、情報倫理	経営学特論・研究(講義)	社会知の理論
星野 広和	教授/博士(経営学・東大)	経営管理論、経営組織論、経営戦略論	経営学特論・研究(講義)	現代企業の経営課題 - 製品リコールと組織学習 -
本田 一成	教授/博士(経営学・法政大)	組織行動論、国際経営論、社会調査論	経営学特論・研究(講義)	労働コミュニケーションの現状と課題
金子 良太	教授	財務会計、非営利法人会計、公会計	会計学特論・研究(講義)	財務会計や公会計の基本的な論文や会計基準について学んでいく
佐藤 謙一	教授	所得税、租税手続、租税争訟	税務特論	租税法の基礎理論と租税法実務である所得税法等における実務上の論点とその説明
野田 隆夫	准教授	理論経済学	理論経済学特論・研究(講義)	ミクロ経済学の研究
山本 健太	准教授/博士(理学・東大)	経済地理学、都市地理学	経済政策特論・研究(講義)	世界都市経済の展開とその特徴
尾崎麻弥子	准教授	西洋経済史	経済学特論・研究(講義)	近代ヨーロッパの流通に関する文献・資料講義
高木 康順	准教授	マクロ経済学、計量経済学、会計学	計量経済学特論・研究(講義)	計量経済学において経済理論とデータを結びつける化学的方法論と数理統計学を学ぶ
東海林孝一	准教授	会計学	会計学特論・研究(講義)	制度的原価計算の批判的検討
中田 有祐	准教授	財務会計、国際会計	会計学特論・研究(講義)	財務会計理論、国際会計の歴史と現状
藤村 和男	客員教授	税法実務	税務特論(講義)	法人企業の税法実務の論点
小宮山 隆	客員教授	税務会計(個人所得税務会計)	政務特論(講義)	課税所得金額(課税標準)の計算構造が公正なものかどうかを批判的に検討する

在学生・修了生メッセージ Message



証券投資の知識を深め 視野を広げたい

國學院大學 経済学部 経済学科 卒業
経済学研究科 経済学専攻 グローバルコース 在学 何元君(カ・ゲンクン)

He Yuanjun

私が大学院に進もうと思ったのは、大学3年生の時でした。その時、私は証券投資のゼミにいて、将来投資に関係ある仕事に就こうと思っていましたが、まだ私には足りない知識があったので、ゼミの先生と相談して、大学院に進み、より深い知識を習得したいと思いました。

私の研究テーマは、「ニューラルネットワークを用いた株式市場における予測および実証分析」です。株式市場において、株価の動きはある程度一定的な法則があります。他の資料から、株価の動きは実際にある複雑な非線形関数です。株の分析や動向の予測には、自分でプログラムを編集する必要があります。この問題を解決するにはニューラルネットワークのバックプロパゲーション法とLSTM法は非線形の関数の予測面では優れている性能を持っています。この二つの方法を用いて、個別の銘柄や同種類の銘柄群の

将来の予測を試みます。

大学院では、様々な学科が集中しているため、色々な視点から物事に触れることができます。先生たちは学生一人ひとりに対して、研究内容に合わせて、授業内容、教科書の選択を話し合った上で授業を進めてくれます。私の場合は、学部から知っている先生が学内に多いので、続けて進学することに心配もなく、安心して勉強ができました。

将来は、学校で学んだ知識を活かして、証券アナリストになりたいと考えています。仕事を通して、色々な考え方に触れ、色々な立場で考え視野を広げられればと思います。そして、機会があれば、日中の友好交流の力になりたいと思っています。



開業を見据えた実務的な観点から 租税法を学ぶ

経済学研究科 経済学専攻 博士課程前期 修了
萩生田富司喜税理士事務所 萩生田 宗司

Hagiuda Soshi

私は、父が税理士事務所を開業していたため、その姿に憧れ一日も早く税理士の資格を取得したいと思い、大学院の進学を希望致しました。数多くある大学院がある中で本学を選んだ理由は、国税庁でご活躍された教授が複数在籍されており、机上だけでなく実務的な観点からも租税法を学ぶことができるのではないかと考えたこと、そのような環境下で学ぶことで、税理士試験の一部科目免除の対象となるような水準の高い修士論文を執筆することができるのではないかと考えたからです。実際に教授方の論文指導は丁寧であり、文章を論理的かつ明瞭に構成する力が培われたと思います。

教授からは修士論文の題材を選定するにあたり、「将来自分が開業する上で、大学院で研究した専門的知識が付加価値になるような、また、顧客を獲得できるようなテーマを選びなさい」との言葉を賜りました。私が研究題材にした家族信託は、信託の委託者が自分の死後、残された家族の生活を見据えて設定する生活保障・財産承継等の手段であり、近年大きく注目を浴びている分野です。しかし、先行研究があまりなかった事と、信託自体が

税法だけでなく信託法・民法にも密接に関わっていたため、各法の相互理解など研究は困難を伴いました。

執筆が行き詰まった時は焦りや不安に駆られました。教授方の親身な指導と、共に切磋琢磨する院友の存在もあり、挫折することなく論文を完成へと導くことができました。その結果として、私が執筆した修士論文「家族信託を巡る課税関係について- 受益者連続型信託を中心として -」が、租税資料館賞奨励賞を受賞しました。問題点を抽出し、それに対して自分なりの解決策を提示できたことは、職業会計人となった現在においても自信に繋がりました。

修了後、私は税理士事務所に勤めて研鑽を積んでおります。また、税理士試験にも合格し、ただいま税理士登録の申請中です。資格取得がゴールではなく、税法は毎年改正されるものなので、その動向を注視しながら専門的知識を蓄積していきたいです。将来的な目標として、顧客のニーズに沿った適切なタックスプランニングができる税理士を目指し邁進して行きたいと思っています。

経済学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

経済学研究科の教育研究上の目的

経済学研究科は、学部教育を基礎とし、経済及び経済学に関する、専門的知識と能力をもつ職業人、及び豊かな学識と創造的な研究能力をもつ研究者を育成することを目的とする。

経済学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

博士課程前期(修士)においては、学部教育における経済と経済学に関する基礎力と日本経済に関する知見を踏まえ、経済学、経営学、会計学または税務に関わる専門分野について十分な学力があると認定された者に対して、修士号を授与する。

博士後期課程(博士)においては、博士課程前期(修士)で求められた最先端の専門的知識に加えて、理論的革新や新しい知見の発見などの独創的研究を行い、今後、専攻分野において研究・教育する能力を身につけたことを示すことができる成果をあげた者に対して、博士号を授与する。

教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

博士課程前期(修士)においては、指導教員が担当する授業科目および論文指導を通じて、自己の専門領域における専門的知識を学ぶことと並行し、自己の専門領域の関連諸領域について授業科目の履修を通して学ぶこと。さらにアカデミック・コース、グローバル・コース、キャリア・コースの各コースを選択した者は、当該コースの選択必修科目から所定の単位数の科目を修得すること。

博士課程後期(博士)においては、指導教員が担当・指定する授業科目を修得するとともに、指導教員のもとで研究指導を受けること。

入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

博士課程前期(修士)、博士課程後期(博士)ともに、本学の建学の精神、そして本研究科が定める学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解して、以下の資質・志向をもった者を受け入れる。

博士課程前期(修士)においては、学部教育における経済と経済学に関する基礎力と日本経済に関する知見に基づいて、以下いずれかの志向を持った者を受け入れる。

- アカデミック・コースでは、博士課程後期(博士)アカデミック・コースへの進学を目指す者。
- グローバル・コースでは、博士課程前期を修了し、外資系企業など修士号取得者を厚遇する職種、または教職や公務員、研究職など、専門的で深い学識を必要とする職種を目指す者。
- または、博士課程後期(博士)グローバル・コースへの進学を目指す者。
- キャリア・コースでは、博士課程前期を修了し、税理士などの資格取得を目指す者。

博士課程後期(博士)においては、博士課程前期(修士)における経済と経済学に関する専門的知見に基づいて、以下いずれかの志向を持った者を受け入れる。

- アカデミック・コースでは、課程博士号を取得し、課程修了後は研究職を目指す者。
- グローバル・コースでは、課程博士号を取得し、課程修了後は修士号取得者よりもさらに専門的で深い学識を有する博士号取得者を厚遇する職種を目指す者。



入学定員と収容定員

研究科名	専攻名	前期課程		後期課程		総収容定員
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
文学研究科	神道学・宗教学専攻	20	40	4	12	52
	文学専攻	30	60	10	30	90
	史学専攻	40	80	10	30	110
	計	90	180	24	72	252
法学研究科	法学専攻	10	20	5	15	35
経済学研究科	経済学専攻	10	20	5	15	35
合計		110	220	34	102	322

キャリアサポート

大学院修了後の進路として、教員や専門職以外にも、一般企業への就職活動を行う人も多くいます。キャリアサポート課では、業界セミナーや学内企業説明会等を開催する一方、就職活動の悩み全般から模擬面接等の実践対策まで幅広くアドバイスしています。一般企業では、大学院の修了予定者も「新卒」として扱われますので、学部学生と同様にキャリアサポート課を活用することをお勧めします。



就活スタートガイド
5～6月
本格的な就職活動の開始に向けて、効率的な動き方のアドバイスに加え、就職情報サイトの登録などを行います。

模擬面接トレーニング
2月
大手企業の人事担当者を迎え、本番に近い環境で個人・集団面接の実践的トレーニングを行います。

業界セミナー
10～12月
期間中ほぼ毎日、各業界を代表し、個別説明会では予約が取れない超大手優良企業の採用担当者が来校して、業界および企業の説明を行います。

学内合同企業説明会
3月
本学の学生を採用する意欲の高い企業の担当者と直接話せる機会、1日で多くの企業と出会うことができます。

研究環境

21世紀COEプログラム「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」(平成14年度～18年度)、ORC整備事業「モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践(平成19年度～23年度)」の展開を踏まえ、研究開発推進機構と大学院が連携して特色ある研究の充実と成果の発信を行っています。大学院学生も共同研究プロジェクトに参画するなど高度な研究能力の向上を図っており、これまでに多くの若手研究者を輩出しています。

平成31年度 研究開発推進機構 事業一覧

機関	研究代表者	研究課題	新規事業
日本文化研究所	平藤 喜久子	デジタル・ミュージアムの運営および日本の宗教文化の研究と教材の国際発信(H31～33年度)	
	松本 久史	「國學院大學 国学研究プラットフォーム」の展開と国学史像の再構築(H30～32年度)	
学術資料センター	笹生 衛	館蔵文化財の資料化と研究公開(H29～31年度)	
	小川 直之	館蔵史資料のデジタル化と研究公開(H29～31年度)	
校史・学術資産研究センター	笹生 衛	神道祭祀・儀礼の研究と展示公開(H29～31年度)	
	阪本 是丸	國學院大學における大学アーカイブズ体制の基盤整備(H29～31年度)	
研究開発推進センター	根岸 茂夫	國學院大學における学術資産研究の可視化(H30～32年度)	
	阪本 是丸	研究開発推進センター研究事業 國學院大學21世紀研究教育計画委員会研究事業「渋谷の都市形成と再開発に関する研究」(H30～32年度)	
國學院大學博物館	笹生 衛	國學院大學博物館	
古事記学センター	谷口 雅博	私立大学研究ブランディング事業(平成28年度採択) 「古事記学」の推進拠点形成 - 世界と次世代に語り継ぐ『古事記』の先端的研究・教育・発信 -	

平成30年度「國學院大學特別推進研究助成金」採択課題一覧

No.	研究代表者 (職位・所属)	研究課題名
1	須永 和之 (教授 文)	ヨーロッパの学校図書館制度と情報リテラシー教育の研究:ルーマニアの学校図書館
2	谷口 康浩 (教授 文)	古人骨DNA分析の先端技術による早期縄文人の遺伝学的系統および血縁関係の研究
3	金子 良太 (教授 経)	非営利組織・政府会計の理論と実務を融合した新たな枠組みの構築
4	土田 壽孝 (教授 経)	「破綻処理計画書(生前遺言)」と金融機関相互の破綻リスクの複層的連携性分析のAI開発
5	野村 一夫 (教授 経)	社会知に関する理論フレームワークの構築:知識過程論とコミュニケーションデザインからの接近
6	本田 一成 (教授 経)	労働組合による労働者供給事業の実効性に関する調査研究
7	伊藤 英之 (助教 人)	アスリートの認知と心理状態や心理特性との関連に関する基礎的研究

令和元年度 大学院特定課題研究

No.	研究代表者(職位)	研究課題
1	西岡 和彦 (教授)	江戸期『論語』訓蒙書の研究
2	山田 利博 (教授)	現代ポップカルチャーにおける異界-日本人の深層意識を探る
3	諸星 美智直 (教授)	日本語学習者における自然な発話と文体の研究
4	久保田 裕子 (教授)	地域再生と持続可能な社会システム形成に関する学際的研究

平成30年度 科学研究費助成事業採択者一覧

No.	事業区分	研究科目	研究代表者(職位・所属)	研究課題番号	研究課題名
1	補助金	基盤研究(A)	谷口 康浩 (教授 文)	17H00939	更新世-完新世移行期における人類の生態行動系と縄文文化の形成に関する先史学的研究
2	補助金	基盤研究(B)	根岸 茂夫 (教授 文)	15H03242	近世における前期国学のネットワーク形成と文化・社会の展開に関する学際的研究
3	補助金	基盤研究(B)	寺本 貴啓 (准教授 人)	16H03802	協働によるDeep Learningを促進する指導デザインの開発と検証
4	補助金	基盤研究(B)	内川 隆志 (教授 研)	17H02025	好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究
5	補助金	基盤研究(B)	多和田 真理子 (准教授 文)	17H02671	小学校区・中学校区を単位とする地域社会の文化構築過程に関する歴史的研究
6	補助金	基盤研究(B)	吉永 安里 (准教授 人)	17H02705	言葉の教育における円滑な幼小接続を実現する系統的かつ互恵的な実践モデルの開発
7	補助金	基盤研究(B)	平藤 喜久子 (教授 研)	18H00615	日本宗教教育の国際的プラットフォーム構築のための総合的研究
8	基金	基盤研究(C)	星野 靖二 (准教授 研)	15K02059	明治前期の宗教をめぐる言説空間の再検討 宗教メディアの横断的考察
9	基金	基盤研究(C)	細谷 圭 (教授 経)	15K03448	複数均衡モデルを基礎とした震災後の長期経済動学の考察
10	基金	基盤研究(C)	藤野 寛 (教授 文)	15K01988	アドルノ倫理学の研究 美学との関係の中で
11	基金	基盤研究(C)	原 英喜 (教授 人)	16K01885	自発的な運動における特徴的な動きから観る発達過程の追跡的研究
12	基金	基盤研究(C)	井上 明芳 (教授 文)	16K02417	自筆資料調査および実地踏査による森敦文学の総合的研究
13	基金	基盤研究(C)	久野 マリ子 (教授 文)	16K02736	音声談話資料の発掘と収集による首都圏方言の古層の解明
14	基金	基盤研究(C)	新倉 真矢子 (教授 文)	16K02933	外国語音声の聴取力を向上させるための自立型学習プログラムモデルの構築
15	基金	基盤研究(C)	平地 秀哉 (教授 法)	16K03299	熟議民主政構築に向けた人権保障と違憲審査制のあり方
16	基金	基盤研究(C)	苅田 真司 (教授 法)	16K03483	後期マッキンバーの「社会科学」論
17	基金	基盤研究(C)	島田 由紀子 (教授 人)	16K04563	幼児の表現に影響を与える描画指導法の検討 - 自分なりの表現を楽しむために -
18	基金	基盤研究(C)	夏秋 英房 (教授 人)	17K01912	地域教育・保育支援プラットフォームの構築過程の研究
19	基金	基盤研究(C)	加藤 久子 (研究員 研)	17K02228	社会主義期ポーランドにおけるカトリック教育:政治・社会変動のダイナミクスとして
20	基金	基盤研究(C)	山本 健太 (准教授 経)	17K03256	わが国緑地地域における伝統芸能の現在
21	基金	基盤研究(C)	甘利 航司 (教授 法)	17K03435	GPSテクノロジーを使用した犯罪者監視システムの我が国への導入可能性の検証
22	基金	基盤研究(C)	星野 広和 (教授 経)	17K03892	製品事故・リコール情報の収集・処理・伝達・学習プロセスに関する経営学的研究
23	基金	基盤研究(C)	斉藤 こずゑ (教授 文)	17K04369	映像メディアによる子どもの表象 子どもの権利と研究倫理の検討
24	基金	基盤研究(C)	神長 美津子 (教授 人)	17K04642	幼稚園におけるミドルリーダー育成のための現代的な研修システムの開発
25	基金	基盤研究(C)	古沢 広祐 (教授 経)	17K12620	災害・復興と伝統文化の役割に関する学際的研究
26	基金	基盤研究(C)	木原 志乃 (教授 文)	18K00047	古代ギリシア医学における病の位相:女性の身体の発見と医術の観点から
27	基金	基盤研究(C)	石井 研士 (教授 神)	18K00081	宗教法人の経営する霊園・納骨堂の経営に関する研究 - 「名義貸し」を中心に
28	基金	基盤研究(C)	藤澤 紫 (教授 文)	18K00169	浮世絵にみる文明開化 - 子ども文化の変遷と教育ツールとしての玩具絵 -
29	基金	基盤研究(C)	田原 裕子 (教授 経)	18K01151	渋谷再開発を契機とした新しい都市的コミュニティの創造に関する研究
30	基金	基盤研究(C)	渡邊 雅俊 (教授 人)	18K02800	知的障害児の仲間との相互作用による学習活動における認知特性とその援助方法
31	基金	基盤研究(C)	備前 嘉文 (准教授 人)	18K10825	スポーツツーリズム参加人口拡大にむけたスポーツツーリストの理解
32	基金	基盤研究(C)	久保田 裕子 (教授 経)	18K11758	消費者参加による提携型有機農業の史的考察と現代的意義に関する研究
33	基金	基盤研究(C)	諸星 美智直 (教授 文)	15K02574	福祉言語学・福祉言語教育学構築のための近代日本語点字資料の整備
34	基金	基盤研究(C)	神事 努 (准教授 人)	15K01566	セイバートリクスによる野球投手の評価指標のバイオメカニクスの検証
35	基金	若手研究(B)	稲垣 浩 (准教授 法)	16K17053	戦後地方政府における「開放型」幹部人事の経験と展開に関する研究
36	基金	若手研究(B)	戸村 理 (准教授 教)	16K17397	戦前期日本における私立高等教育機関の管理運営組織に関する歴史的研究
37	基金	若手研究(B)	川田 裕樹 (准教授 人)	17K13251	肥満小児と保護者の協調行動を重視した生活習慣改善支援プログラムの検討と開発
38	基金	若手研究(B)	安田 恵美 (准教授 法)	17K13635	高齢犯罪者における「社会復帰」概念に関する理論的実証的研究
39	基金	若手研究(B)	石井 里枝 (教授 経)	17K13770	戦前期尾西織物業の展開と地域の産業化に関する社会経済史的研究
40	基金	若手研究(B)	朝倉 一貴 (助手 文)	16K21366	空中写真アーカイブを用いた古代地方官衙と交通路網の復元的研究
41	基金	若手研究	手塚 雄太 (助教 文)	18K12506	近現代日本における「個人後援会」の基礎的研究
42	補助金	奨励研究	篠田 隆行 (課長 財)	18H00048	学校法人(私立大学)の資産構成検証による経営行動分析研究
43	補助金	研究成果公開促進費(学術図書)	丹羽 宣子 (研究員 研)	17H07093	僧侶らしさと 女性らしさの宗教社会学
44	補助金	研究活動スタート支援	齋藤 公太 (助教 研)	18HP5260	明治期キリスト者の神道観 近代日本キリスト教史と神道史の架橋に向けて
45	補助金	研究活動スタート支援	渡辺 俊和 (助教 文)	18H05568	ディグナーガ論理学における伝統と革新 『集量論』の他学派批判を中心に
46	補助金	研究活動スタート支援	高橋 秀樹 (准教授 文)	18H05625	『吾妻鏡』の情報分析による鎌倉時代政治史の再構築

文:文学部 神:神道文化学部 法:法学部 経:経済学部 人:人間開発学部 研:研究開発推進機構 教:教育開発推進機構 財:財務部経理課

3つのポリシー

博士課程教育実施方針

学位授与方針 *diploma policy*

博士課程前期においては、研究科で定める教育課程の単位を修得し、専門的知識を自らのものとするとともに、主体的に研究課題を定め、これに関する諸研究の検討を行い、新たな知見を加えた修士論文あるいはリサーチ・ペーパーを提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、その専攻分野を示す修士号を授与する。

博士課程後期においては、研究科で定める教育課程の単位を修得

するとともに、その分野の研究動向を理解した上で、独自の見解を含む博士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、その分野で継続的な研究が行い得ると認定された者に、その専攻分野を示す博士号を授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、かつ口述試験において博士課程後期の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対しても、その専攻分野を示す博士号を授与する。

教育課程の編成・実施方針 *curriculum policy*

大学院の設置目的を具現化するために文学、法学、経済学の3研究科を置き、学生が専門的知識を修得するとともに、研究課題に主体的に取り組んで成果があげられるようになることを方針としている。この方針に基づいて、各研究科とも博士課程前期(修士)と博士課程後期(博士)とを一貫させた教育課程として設け、前期課程では、研究課題に主体的に取り組むのに必要となる幅広い学力と能力が修得できるように、専攻分野ごとに演習、論文指導演習および講義科目などを編成している。後期課程では、専攻分野に関する独創的かつ自立した研究を行う能力、専門的業務に必要な高度な能力が修得できるように、専門分野の演習と論文指導演習あるいは研究指導を編成している。

入学者受け入れ方針 *admission policy*

大学院ならびに各研究科設置の目的と合致する、積極的な目的意識や志向性を有するとともに、研究科での学修ならびに研究に必要な基礎的な知識や能力などを備えていることを受け入れ方針としている。また、学士課程(学部)修了者を対象とする一般入学に加え、学士課程(学部)において優秀な成績を収めている者の大学院への飛び入学や推薦入学、さまざまな経験を有する社会人や外国人留学生を対象とする入学選抜など、多様な入学制度を設けることで、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大をはかることを方針としている。

■ 大学院進学相談会 会場: 渋谷キャンパス

文学研究科・法学研究科・経済学研究科の専任教員が入試説明を行うほか、専攻コースに関する個別相談に応じます。毎年、この相談会に参加して大学院進学を決意したという学生が多数います。皆さん、奮ってご参加ください。また、現役の大学院学生にも、相談できます。

詳細はホームページでご確認ください。 → 
<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p1>

■ 大学院 学生募集要項・過去問題 申し込み方法

配送の申し込み daigakuin-j@kokugakuin.ac.jp
 ご希望の研究科名・郵便番号・住所・氏名・電話番号・ご請求の資料名(例:「学生募集要項」「過去問題(過去3年間)」など)を明記の上、メールでお申し込みください。

詳細はホームページでご確認ください。 → 
<https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p1/p5>

窓口での受け取り(渋谷キャンパス)
 直接、大学院事務課で頒布しますので、窓口にお越しください。

個人情報の取り扱いについて
 國學院大學では、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努めています。資料申込の際に提出された個人情報は、資料送付のため以外には使用しません(この利用目的の範囲を超えて使用すること、本人の同意を得ずに第三者に提供することはありません)。保有期間は当該年度末まで

國學院大學 140周年に向けて ~ 沿革 ~

- 1882 (明治15年) ■ 國學院大學の母体「皇典講究所」創立。初代総裁は有栖川宮熈仁(たかひと)親王。場所は東京・麹町区飯田町(現・千代田区飯田橋)。9月1日、授業開始。11月4日、開校式。ここに本学は晴れの第一歩を記す。
- 1890 (明治23年) ■ 7月、「皇典講究所」を母体として、国史・国文・国法を攻究する教育機関「國學院」が誕生(本科3年・研究科2年)。「國學院」の名前が歴史上初めて登場する。
- 1904 (明治37年) ■ 4月、専門学校令により専門学校に昇格。「私立國學院」となる(大学部予科2年・本科3年)。
- 1906 (明治39年) ■ 6月、文部省告示により「私立國學院大學」と改称、大学組織となる。
- 1909 (明治42年) ■ 明治33年から始まった神職講習会を改め、神職養成部(神職講習科・神職講習科・祭式講習科)を開設。
- 1920 (大正9年) ■ 4月15日、大学令により大学に昇格。私立大学として最初に認可されたのは、本学の他に、慶應義塾・早稲田・明治・中央・日本・法政・同志社の7大学。
- 1923 (大正12年) ■ 学生数も増え、大規模な学園拡充計画を5年前から進め、5月には渋谷御料地(現在地)に新校舎が完成。6月、授業を開始。以後、昭和10年代にかけて本学は発展の一途をたどる。
- 1935 (昭和10年) ■ 大講堂が竣工。
- 1946 (昭和21年) ■ 「皇典講究所」を解散し「財団法人國學院大學」を設立。他大学に先んじて男女共学制を採用。
- 1948 (昭和23年) ■ 新制文学部第一部を開設。
- 1949 (昭和24年) ■ 文学部第二部、政治学部第一部(次年度に政経学部と改称)を開設。
- 1951 (昭和26年) ■ 「学校法人國學院大學」となる。政経学部第二部を開設。大学院日本文学専攻・神道学専攻修士課程を開設。
- 1952 (昭和27年) ■ 大学院日本史学専攻修士課程を開設。「考古学資料室」を開設(昭和30年の文部省告示で博物館相当施設に指定される)。
- 1953 (昭和28年) ■ 大学院日本文学専攻・日本史学専攻博士課程を開設。
- 1955 (昭和30年) ■ 「國學院大學幼稚園教員養成所」を設立。「日本文化研究所」を創設。
- 1958 (昭和33年) ■ 神道学専攻科(高等神職養成課程)、大学院神道学専攻博士課程を開設。
- 1962 (昭和37年) ■ 神奈川運動場を開設、体育関係授業を開始。
- 1963 (昭和38年) ■ 創立80周年を記念して法学部第一部を開設。「神道学資料室」を開設。
- 1965 (昭和40年) ■ 法学部第二部を開設。「折口博士記念古代研究所」を設立。その後、「武田博士記念室(昭和41年)」「河野博士記念室(昭和45年)」を開設。
- 1966 (昭和41年) ■ 政経学部を経済学部第一部・第二部に改める。
- 1967 (昭和42年) ■ 大学院法学研究科修士課程・博士課程、第二部神道学科を開設。
- 1968 (昭和43年) ■ 大学院経済学研究科修士課程を開設(昭和45年に博士課程を開設)。
- 1975 (昭和50年) ■ 「考古学資料室」を「考古学資料館」と改称。
- 1982 (昭和57年) ■ 11月4日、高松宮宣仁親王殿下台座のもと創立100周年記念式典を挙げる。北海道滝川市に「國學院女子短期大学」を新設。
- 1984 (昭和59年) ■ 100周年記念館が竣工。神奈川運動場に新石川校舎を建設。
- 1985 (昭和60年) ■ 新石川校舎(現「横浜たまプラーザキャンパス」)完成、授業を開始。
- 1991 (平成3年) ■ 「國學院女子短期大学」を、男女共学化により「國學院短期大学」に改称。
- 1992 (平成4年) ■ 横浜たまプラーザキャンパスで、第一部全学部1・2年生全員を対象に授業を開始。
- 1996 (平成8年) ■ 文学部第一部に日本文学科・中国文学科・外国語文化学科、経済学部第一部に経済ネットワーク学科、同第二部に産業消費情報学科を開設。
- 2001 (平成13年) ■ 法学部と経済学部がフレックス開講制に移行。
- 2002 (平成14年) ■ 11月4日、三笠宮宣仁親王殿下台座のもと創立120周年記念式典を挙げる。神道文化学部を開設(フレックス開講制)。21世紀COEプログラムに「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」が採択される。
- 2003 (平成15年) ■ 2月、120周年記念1号館が竣工。
- 2004 (平成16年) ■ 「法科大学院」を開設。7月、120周年記念2号館が竣工。
- 2005 (平成17年) ■ 経済学部経営学科を開設。経済学部および中国文学科・外国語文化学科・哲学科は7時限制に、日本文学科と史学科がフレックス開講制に移行。
- 2006 (平成18年) ■ 5月、若木タワー(地上18階、地下1階)が竣工。
- 2007 (平成19年) ■ 創立125周年。4月、「研究開発推進機構」が発足。
- 2008 (平成20年) ■ 3月、学術メディアセンター棟(地上6階、地下2階)が竣工。4月、法学部が7時限制に移行。
- 2009 (平成21年) ■ 4月、横浜たまプラーザキャンパスに人間開発学部を開設。「教育開発推進機構」が発足。「國學院短期大学」を「國學院大學北海道短期大学部」に改称。9月、3号館が竣工。
- 2011 (平成23年) ■ 日本文学科が7時限制に移行。
- 2012 (平成24年) ■ 教職センターが発足。11月4日、創立130周年記念式典を挙げる。
- 2013 (平成25年) ■ 人間開発学部子ども支援学科を開設。史学科が7時限制に移行。
- 2014 (平成26年) ■ LLC YOKOHAMA OFFICE 開設。ボランティアステーション開設。
- 2015 (平成27年) ■ 4月、130周年記念5号館(地上3階)が竣工。
- 2017 (平成29年) ■ 創立135周年。

研究教育開発推進に関する宣言

國學院大學は、建学の精神である「神道精神」に基づく研究教育を更に創造的に発展させ、

主体性・独自性を保持しつつ、国際社会での協調・共生体制を構築し、

学術研究及び教育を通して日本社会の発展と世界の平和に貢献する。

本学は、「伝統と創造」「個性と共生」「地域性と国際性」の調和を研究教育における基本方針と定め、

日本人としての自覚と教養を身につけ、自立した個性を有し、

より良き日本社会と世界の形成に尽力できる意思と能力を持つ人材を育成することを目標とする。

また、研究教育における成果を広く社会に還元するとともに、研究教育の質的向上を不断に図り、

具体的施策を立案・実施・検証する体制を構築し、その推進に当たることを宣言する。

おも 3つの慮い

異なる2つの概念の調和を目指します

伝統・創造

伝統文化を継承し、そこに学び
未来に向かって新たな価値を
創造してゆきます。

個性・共生

個性を輝かせると同時に、
社会との共生を
大切にしてください。

地域性・国際性

自らの生きる地域に貢献し、
国際社会での
調和を目指します。



交通アクセス

渋谷駅から徒歩約13分

JR(山手線・埼京線)
東京メトロ(銀座線・半蔵門線・副都心線)
東急東横線 東急田園都市線 京王井の頭線

表参道駅から徒歩約15分

東京メトロ(千代田線・半蔵門線・銀座線)

恵比寿駅から徒歩約15分

JR(山手線・埼京線)

学内に駐車場、駐輪場はありません。来校の際は、公共交通機関をご利用ください。



國學院大學大学院

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28
TEL: 03-5466-0142 E-mail: daigakuin-j@kokugakuin.ac.jp
<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate>

